

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	からだの仕組み I
2. 科目分類	基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	西川彰
7. 授業形式	プレゼンテーションソフトを用いたスライドにより関連する写真やイラストを呈示しながら、さらに板書を組み合わせた講義形式で授業を進めていく。
8. 授業の目標	この授業では、構造学的な特徴を学ぶだけでなく、その機能や病態との関連性についても理解を深めることを目標とする。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	毎回の授業時には教科書並びに配布プリントを必ず持参すること。
11. 教科書	東洋療法学校協会 編、『解剖学 第2版』，医歯薬出版
12. 副読本	野村巖 監修、『解剖学ワークブック』，医歯薬出版
13. 推薦参考図書	坂井建雄 監訳、『プロメテウス解剖学 コア アトラス 第4版』，医学書院

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第1章 人体の構成	人体の構成要素，人体の区分と方向
2	第10章 運動器系	下肢の骨格（下肢帯の骨）
3	第10章 運動器系	下肢の骨格（自由下肢の骨）
4	第10章 運動器系	下肢の骨格（下肢の関節：股関節，膝関節）
5	第10章 運動器系	下肢の骨格（下肢の関節：足関節，足部・足趾の関節）
6	第1章 人体の構成	細胞（細胞の構造）
7	第1章 人体の構成	細胞（細胞分裂と遺伝子）
8	第1章 人体の構成	組織（上皮組織）
9	第1章 人体の構成	組織（結合組織：線維性結合組織）
10	第1章 人体の構成	組織（結合組織：軟骨組織，骨組織，血液とリンパ）
11	第1章 人体の構成	組織（筋組織，神経組織）
12	第1章 人体の構成	体表構造（皮膚）
13	第6章 生殖器系	受精と発生（受精，卵割，着床）
14	第6章 生殖器系	受精と発生（胚葉の形成，胎盤）
①	統合教育科目 I	総復習
②	統合教育科目 I	総復習
15		期末試験
③	統合教育科目 I	試験結果と振り返り授業

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	からだの仕組みⅡ
2. 科目分類	基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 後期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	西川 彰
7. 授業形式	プレゼンテーションソフトを用いたスライドにより関連する写真やイラストを呈示しながら、さらに板書を組み合わせた講義形式で授業を進めていく。
8. 授業の目標	この授業では、構造学的な特徴を学ぶだけでなく、その機能や病態との関連性についても理解を深めることを目標とする。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	毎回の授業時には教科書並びに配布プリントを必ず持参すること。
11. 教科書	東洋療法学校協会 編、『解剖学 第2版』，医歯薬出版
12. 副読本	野村巖 監修、『解剖学ワークブック』，医歯薬出版
13. 推薦参考図書	坂井建雄 監訳、『プロメテウス解剖学 コア アトラス 第4版』，医学書院

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第2章 循環器系	血管系（循環の概要，血管の構造，吻合，門脈）
2	第2章 循環器系	心臓（位置，心膜，心臓の壁，心房と心室，心臓の弁膜，刺激伝導系，心臓の血管）
3	第2章 循環器系	動脈系（体循環の動脈系：上行大動脈，大動脈弓，胸大動脈）
4	第2章 循環器系	動脈系（体循環の動脈系：腹大動脈，総腸骨動脈）
5	第2章 循環器系	静脈系（体循環の静脈系：上・下大静脈）
6	第2章 循環器系	静脈系（体循環の静脈系：門脈系，骨盤内臓の静脈）
7	第2章 循環器系	胎児循環（胎児循環の経路と切り替わり）
①	統合教育科目Ⅰ	総復習
8		後期中間試験
②	統合教育科目Ⅰ	試験結果と振り返り授業
9	第2章 循環器系	リンパ系（リンパ管の走行，リンパ系の器官）
10	第3章 呼吸器系	鼻腔・副鼻腔，咽頭・喉頭
11	第3章 呼吸器系	気管と気管支
12	第3章 呼吸器系	肺（肺葉，肺区域，肺胞，胸膜，縦隔）
13	第6章 生殖器系	女性生殖器（卵巣，卵管）
14	第6章 生殖器系	女性生殖器（子宮，膣，外陰部）
③	統合教育科目Ⅰ	総復習
15		後期期末試験
④	統合教育科目Ⅰ	振り返り授業

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	からだの働き I
2. 科目分類	基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	天貝 裕地
7. 授業形式	講義 タブレットPC・プロジェクター使用
8. 授業の目標	生理学は正常な体の機能を理解するために欠かせない基礎的学問です。本科目は体を構成する様々な器官の働きを確実に理解することを目指します。到達目標 基礎分野の“生理学”の神経、筋に関し十分な知識を習得する。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	授業予定範囲の教科書をよく読むこと。不明な点があればすぐに質問し、その場で理解するように努めること。復習を怠らないこと。
11. 教科書	『生理学』第3版 公益社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
12. 副読本	特になし
13. 推薦参考図書	特になし

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	イントロダクション	生理学とは
2	第1章 生理学の基礎	生理機能の特徴 ・ 細胞の構造と機能
3	第1章 生理学の基礎	細胞の構造と機能 ・ 物質代謝
4	第1章 生理学の基礎	体液の組成と働き ・ 物質移動
5	第10章 神経	ニューロンの構造と働き
6	第10章 神経	神経線維の興奮伝導
7	第10章 神経	シナプス伝達
8	第10章 神経	中枢神経系の分類と機能
9	第10章 神経	反射 ・ 脊髄 ・ 脳幹 ・ 小脳 ・ 視床 ・ 視床下部
10	第10章 神経	大脳 ・ 脳脊髄液 ・ 末梢神経系 ・ 自律神経系
11	第11章 筋	骨格筋の構造と働き
12	第11章 筋	筋の収縮の仕組み
13	第11章 筋	筋のエネルギー供給の仕組み
14	第11章 筋	心筋と平滑筋
①	統合教育科目 I	総復習
②	統合教育科目 I	総復習
15		期末試験
③	統合教育科目 I	試験結果と振り返り授業

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	からだの働きⅡ
2. 科目分類	基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 後期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	天貝 裕地
7. 授業形式	講義 タブレットPC・プロジェクター使用
8. 授業の目標	生理学は正常な体の機能を理解するために欠かせない基礎的学問です。本科目は体を構成する様々な器官の働きを確実に理解することを目指します。 目標 基礎分野の『生理学』の運動、感覚等に関し十分な知識を習得する。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	授業予定範囲の教科書をよく読むこと。不明な点があればすぐに質問し、その場で理解するように努めること。復習を怠らないこと。
11. 教科書	『生理学』第3版 公益社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
12. 副読本	特になし
13. 推薦参考図書	特になし

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第12章 運 動	骨格筋の神経支配（運動単位・ α 運動ニューロン・筋紡錘・ γ 運動ニューロン）
2	第12章 運 動	運動の調節（脊髄レベルでの調節・脳幹による調節・小脳による調節）
3	第12章 運 動	運動の調節（大脳基底核による調節・大脳皮質による調節）
4	第12章 運 動	錐体路系と錐体外路系 ・ 発声と言語
5	第13章 感 覚	感覚の分類と一般的性質
6	第13章 感 覚	体性感覚（皮膚感覚・深部感覚・体性感覚の伝導路） ・ 内臓感覚
7	第13章 感 覚	痛覚（痛みの分類・内因性発痛物質・痛みによる反応・痛みの抑制系）
①	統合教育科目Ⅰ	総復習
8		後期中間試験
②	統合教育科目Ⅰ	試験結果と振り返り授業
9	第13章 感 覚	味覚と嗅覚（味覚の性質/受容器と伝導路・嗅覚の性質/受容器と伝導路）
10	第13章 感 覚	聴覚（聴覚の性質・聴覚器と伝導路）
11	第13章 感 覚	平衡感覚（平衡感覚の性質・前庭器官と伝導路）
12	第13章 感 覚	視覚（視覚の性質・視覚の受容器と伝導路）
13	第15章 身体活動の協調	生体の適応（気候馴化・高地馴化） ・ 恒常性維持（ホメオスタシス・調節）
14	第15章 身体活動の協調	恒常性維持（調節） ・ バイオリズム（睡眠/覚醒/神経・内分泌の日内リズム）
③	統合教育科目Ⅰ	総復習
15		後期期末試験
④	統合教育科目Ⅰ	振り返り授業

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	外国語
2. 科目分類	基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 後期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	渡邊 祐子
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	英語によるコミュニケーション能力の修得
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	3分の2以上の出席で受験資格を得る。また、授業内の課題の提出状況も成績評価に反映する。
11. 教科書	英会話トレーニング
12. 副読本	これから始める英会話（ナツメ社） Medical World Waikabout（成美堂）
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単元	概要
1	日常会話（初級）	発音の注意点、あいさつ／自己紹介／気持ち／お礼とおわび、対話～したい
2		初級文法の説明、性格・外見／天気／食事／体調、対話（病気の時）
3		初級文法の説明、声をかける／注意・命令／人体の器官の名称、対話（病気の時）
4	旅行会話（初級）	文法（時制の説明）、あいさつ／ショッピング、対話（レストランにて）
5		電車、タクシー／ホテル／観光スポット、日本語の言葉を英語で説明（居酒屋、回転寿司）
6		エステ／自己紹介／トラブル、日本語の言葉を英語で説明（台風、梅雨）
7		状況に応じた対話を作成、発表
8		後期中間試験
		総復習
9	日常会話（中級）	相手を知る、誘い、自己紹介 対話練習（プレゼント）
10		別れの挨拶、話のきっかけ、相手への気遣い 対話練習（あいづちをうつ）
11		人の性格、仕事の話、励ましの言葉 対話練習（スポーツ）
12		議論する、口説く、がっかりする 対話練習（感情を表す）
13		天気、文章読解（日本語の言葉を英語で説明）
14		振り返り授業
		総復習
15		後期期末試験

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	健康科学
2. 科目分類	基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	庄司 智則
7. 授業形式	視聴覚機器を利用しながら、講義形式で進めていきます。
8. 授業の目標	小児から高齢者にいたるまで体や心がどのような変化をしていくのかを学び、各世代のスポーツの楽しみ方や関わり方について理解します。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	はじめて耳にするような専門用語がでてきますので、復習は必ず行って下さい。
11. 教科書	必要に応じて資料を配布します。
12. 副読本	『体力学』中谷敏昭編 化学同人、『新・スポーツ医学』藤本繁夫ら編 嵯峨野書院
13. 推薦参考図書	財団法人日本スポーツ協会・公認スポーツ指導者養成テキスト：リファレンスブック

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第1回	ガイダンス、健康とは
2	第2回	スポーツと健康
3	第3回	体力とは1
4	第4回	体力とは2
5	第5回	健康と体力の関係1
6	第6回	健康と体力の関係2
7	第7回	総復習
8	第8回	確認テスト
9	第9回	体力テストの方法
10	第10回	体力の発育発達1
11	第11回	体力の発育発達2
12	第12回	子供に必要な運動刺激
13	第13回	幼少年期に必要な運動
14	第14回	行動を起こす体力の加齢変化
①	統合教育科目 I	総復習
②	統合教育科目 I	総復習
15	第15回	期末試験
③	統合教育科目 I	試験結果と振り返り授業

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	コミュニケーション
2. 科目分類	基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	庄司 智則
7. 授業形式	視聴覚機器を利用しながら、講義形式で進めていきます。
8. 授業の目標	1年生の「健康科学」で学習したことを基礎として、各世代に起こりやすいスポーツのケガや予防のためのトレーニング方法、そして具体例として腰部のアスレティックリハビリテーションを詳しく学習します。また、スポーツをコミュニケーションツールの1つとして活用する方策を模索し、具体的な方法について学生が実践できる力を身につけます。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	はじめて耳にするような専門用語がでてきますので、復習は必ず行って下さい。
11. 教科書	必要に応じて資料を配布します。
12. 副読本	『子どもを輝かせるスポーツコミュニケーションスキル』山口文子 体育とスポーツ出版社、『スポーツコミュニケーション』東海林祐子
13. 推薦参考図書	『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』伊藤マモル監修 日本文芸社

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第1回	ガイダンス、スポーツによって起こるケガ
2	第2回	スポーツ障害1
3	第3回	スポーツ障害2
4	第4回	予防のためのトレーニング
5	第5回	腰部のアスレティックリハビリテーション1
6	第6回	腰部のアスレティックリハビリテーション2
7	第7回	総復習
8	第8回	確認テスト
9	第9回	学生発表1、年齢に応じた指導
10	第10回	学生発表2、効果的なほめ方
11	第11回	学生発表3、効果的な叱り方
12	第12回	学生発表4、やる気の育て方
13	第13回	学生発表5、目標達成シート1
14	第14回	学生発表6、目標達成シート2
①	統合教育科目Ⅱ	総復習
②	統合教育科目Ⅱ	総復習
15	第15回	期末試験
③	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	解剖学 I
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	千木良 美歩
7. 授業形式	講義及び演習
8. 授業の目標	運動器の基礎の修得を目指し、修得方法を実践する。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	教科書や配布資料、課題の準備を行い、自身で調べ他の学生と共有することを実践してください。
11. 教科書	医歯薬出版株式会社「解剖学」第2版
12. 副読本	ネッター解剖学アトラス、解剖学ワークブック
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第10章 運動器系	I. 総論 1. 骨格系（第1章の一部）
2		II. 全身の骨格 2. 上肢の骨格
3		I. 総論 2. 筋系（第1章の一部）
4		IV. 上肢 1. 上肢の筋
5		IV. 上肢 2. 上肢の運動
6		V. 下肢 1. 下肢の筋
7		V. 下肢 2. 下肢の運動
8		II. 全身の骨格 1. 脊柱 2. 胸郭
9		III. 体幹 1. 体幹の筋
10		III. 体幹 2. 体幹の運動
11		II. 全身の骨格 5. 頭蓋骨
12		II. 全身の骨格 5. 頭蓋骨
13		VI. 頭頸部 1. 頭頸部の筋
14		VI. 頭頸部 1. 頭頸部の筋
①	統合教育科目 I	総復習
②	統合教育科目 I	総復習
15		期末試験
③	統合教育科目 I	試験結果と振り返り授業

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	解剖学Ⅱ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 後期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	石丸 幸宏
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	人体の名称や正常な構造・特徴を理解することを目指す。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	受験資格を得るためには3分の2以上の出席が必要です。 プリント等の再配布はしないので、なくさないようにしてください。
11. 教科書	『解剖学』 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
12. 副読本	『解剖学ワークブック』 医歯薬出版株式会社
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第4章 消化器系	消化器の構造（消化器の基本構造、口腔）
2	第4章 消化器系	消化器の構造（口腔、咽頭、食道）
3	第4章 消化器系	消化器の構造（胃）
4	第4章 消化器系	消化器の構造（小腸、大腸）
5	第4章 消化器系	消化器の構造（肝臓・胆嚢）
6	第4章 消化器系	消化器の構造（膵臓・腹膜）
7	第5章 泌尿器系	泌尿器の構造（腎臓）
8	第5章 泌尿器系	泌尿器の構造（尿路）
9		後期中間試験
①	統合教育科目Ⅰ	試験結果と振り返り授業
10	第6章 生殖器系	生殖器の構造（男性生殖器）
11	第6章 生殖器系	生殖器の構造（男性生殖器）
12	第7章 内分泌系	内分泌系の構造（下垂体、松果体）
13	第7章 内分泌系	内分泌系の構造（甲状腺、上皮小体、副腎）
14	第7章 内分泌系	内分泌系の構造（膵臓、性腺）
②	統合教育科目Ⅰ	総復習
15		後期期末試験
③	統合教育科目Ⅰ	試験結果と振り返り授業

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	解剖学Ⅲ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	星 伴路
7. 授業形式	PC(PowerPoint)を用いての講義
8. 授業の目標	第1学年の解剖学、生理学で学習した人体の構造・機能を念頭に置いて、まだ終えてない範囲(神経系・感覚器系)との関係性を整理しつつ、理解を深める。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	講義の妨げになるような行為や周囲の友人に迷惑をかける事
11. 教科書	『解剖学 第2版』 社団法人 東洋療法学校協会編
12. 副読本	『ネッター解剖学アトラス 第4版』 F.H.Netter 著 相磯 貞和 訳 南江堂
13. 推薦参考図書	『イラスト解剖学 第10版』 松村 譲児 著 中外医学社 『解剖学講義 改訂3版』 伊藤 隆 著 南山堂

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		オリエンテーション（1年次の解剖学領域の確認と2年次の解剖学の予定説明）
2	第8章 神経系	神経系概要（神経組織の構成確認）
3	第8章 神経系	神経系(中枢)；脳脊髄共通の構造(脳室系・髄膜・脳脊髄液)
4	第8章 神経系	神経系(中枢)；脊髄の構造の確認と各分節の構造における特徴
5	第8章 神経系	神経系(中枢)；脳部位の確認と終脳における核・白質の特徴
6	第8章 神経系	神経系(中枢)；脳幹・小脳における核・白質の特徴
7		神経系(中枢)；まとめ
8	第8章 神経系	神経系(末梢)；脳神経の構成とそれぞれの走行
9	第8章 神経系	神経系(末梢)；脊髄神経の構成と脊髄神経後枝について
10	第8章 神経系	神経系(末梢)；脊髄神経前枝と神経叢(頸神経叢・腕神経叢)
11	第8章 神経系	神経系(末梢)；神経叢(腰神経叢・仙骨神経叢)・自律神経系
12	第9章 感覚器系	味覚・嗅覚・一般感覚受容器の構造と感覚伝導路
13	第9章 感覚器系	視覚・聴覚・平衡覚の受容器の構造
14	第8章 神経系	伝導路(運動伝導路・体性感覚伝導路)
①	統合教育科目Ⅱ	総復習
②	統合教育科目Ⅱ	総復習
15		期末試験
③	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	解剖学IV
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	星 伴路
7. 授業形式	PC(PowerPoint)を用いての講義
8. 授業の目標	これまでに得た知識の整理し、苦手範囲抽出と更なる人体構造の理解を目指す。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	事前に講義範囲を復習し、疑問点がある程度まとめておく事
11. 教科書	『解剖学 第2版』 社団法人 東洋療法学校協会編
12. 副読本	『ネッター解剖学アトラス 第4版』 F.H.Netter著 相磯貞和訳 南江堂
13. 推薦参考図書	『イラスト解剖学 第10版』 松村 讓兒 著 中外医学社 『解剖学講義 改訂3版』 伊藤 隆 著 南山堂

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		オリエンテーション（解剖学領域の国家試験の傾向・年間授業計画説明）
2	第1章 人体の構成	国家試験の傾向と対策（組織学）
3	第6章 生殖器系	国家試験の傾向と対策（発生学）
4	第10章 運動器系	国家試験の傾向と対策（運動器－骨・関節－）
5	第10章 運動器系	国家試験の傾向と対策（運動器－筋・運動様式－）
6	第2章 循環器系	国家試験の傾向と対策（循環器－心臓・動脈－）
7	第2章 循環器系	国家試験の傾向と対策（循環器－静脈・胎児循環・リンパ系－）
8	第3章 呼吸器系	国家試験の傾向と対策（呼吸器）
9	第3章 消化器系	国家試験の傾向と対策（消化器－消化管－）
10	第4章 消化器系	国家試験の傾向と対策（消化器－消化腺－）
11	第5・6章 泌尿生殖器系	国家試験の傾向と対策（泌尿器・生殖器）
12	第7章 内分泌系	国家試験の傾向と対策（内分泌器・各内分泌器の発生起源）
13	第8章 神経系	国家試験の傾向と対策（神経）
14	第9章 感覚器系	国家試験の傾向と対策（感覚器）
15		期末試験

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	生理学 I
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	武本 泰
7. 授業形式	対面授業
8. 授業の目標	人体の諸器官の機能、当該学期では、特に血液、循環、呼吸、消化・吸収の基本について習得する。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	双方向の授業、つまり「ディスカッション」や「ディベート」に重点を置くため、自ら「調べ、考える力」を養うよう心がけてる。
11. 教科書	生理学，東洋療法学校協会，医歯薬出版
12. 副読本	人体の構造と機能，放送大学教材
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単元	概要
1	第2章・血液	ガイダンス、血液総論
2	第2章・血液	赤血球総論、赤血球の形状と数、必要成分、一生、溶血、貧血
3	第2章・血液	白血球、血小板、血漿の成分と働き
4	第2章・血液	止血のメカニズム、血液型
5	第2章・循環	循環総論、心臓の構造と働き、刺激伝道系
6	第2章・循環	心周期、心音、心電図
7	第2章・循環	血管系、血圧
8	第2章・循環	循環調節、リンパ系
9	第2章・循環	リンパ系
10	第3章・呼吸	呼吸総論、換気とガス交換、ガス運搬
11	第3章・呼吸	換気とガス交換、ガス運搬
12	第3章・呼吸	呼吸運動
13	第3章・呼吸	呼吸調節
14	第3章・呼吸	呼吸の異常
①	統合教育科目 I	血液、循環まとめ
②	統合教育科目 I	呼吸まとめ
15		期末試験
③	統合教育科目 I	試験結果と振り返り授業

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	生理学Ⅱ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 後期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	濱津 慶子
7. 授業形式	講義と対話
8. 授業の目標	定期試験に合格できるように基本的な内容を理解させる。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	教科書を必ず持参すること。
11. 教科書	生理学 第3版 医歯薬出版株式会社
12. 副読本	特になし
13. 推薦参考図書	生理学 受験と学習マニュアル

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第8章 内分泌	ホルモンの特徴
2		
3		視床下部一下垂体のホルモン
4		甲状腺ホルモン
5		膵臓のホルモン
6		副腎髄質ホルモン
7		副腎皮質ホルモン
8		後期中間試験
①	統合教育科目 I	試験結果と振り返り授業
9	第9章 生殖・成長と老化	男性生殖器
10		女性生殖器
11		性周期
12		性ホルモン
13		妊娠と出産
14		成長と老化
②	統合教育科目 I	総復習
15		後期期末試験
③	統合教育科目 I	振り返り授業

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	生理学Ⅲ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 後期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	武本 泰
7. 授業形式	講義（対面授業）
8. 授業の目標	人体の諸器官の機能を、当該学期では、特に消化・吸収、代謝、体温、腎臓の働きの基本について習得する。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	双方向の授業、つまり「ディスカッション」や「ディベート」に重点を置くため、自ら「調べ、考える力」を養うよう心がけてる。
11. 教科書	生理学，東洋療法学校協会，医歯薬出版
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	人体の構造と機能，放送大学教材

14. 講義スケジュール

回数	単元	概要
1	第4章	消化と吸収総論、消化管の解剖、消化管の運動
2	第4章	消化管の運動、消化液
3	第4章	吸収、摂食の調節
4	第5章	食品と栄養素（その1）
5	第5章	食品と栄養素（その2）
6	第5章	代謝
7		後期中間試験
①	統合教育科目 I	試験結果と振り返り授業
8	第5章	各栄養素の働きと代謝、体温の調節
9	第6章	体温調節
10	第6章	体熱の産生と放散、発汗とその調節
11	第7章	腎臓の総論、腎臓の働き、尿生成
12	第7章	尿生成（再吸収のメカニズム、各組成別の再吸収、ホルモン）
13	第7章	体液のpH調節、体液の浸透圧調節、体液量の調節
14	第7章	畜尿と排尿
15		後期期末試験
②	統合教育科目 I	振り返り授業

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	病理学概論
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 後期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	行田 直人
7. 授業形式	講義（板書, 資料配布）
8. 授業の目標	教科書に沿って授業を行う。これまでに学んだ人の正常な機能・構造（生理学, 解剖学）と病理との関連性を理解する。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	配布資料と教科書の予習, 復習を習慣づけること
11. 教科書	病理学概論 （東洋療法学校協会編）医歯薬出版株式会社
12. 副読本	なし
13. 推薦参考図書	なし

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	1章	1章, 病理学とは
2	2章、3章	2章, 疾病について、3章, 病因, 疾病の一般
3	3章	3章, 内因, 外因
4	4章	4章, 循環障害概要, うっ血, 虚血, 出血
5	4章	4章, 血栓症, 塞栓症, 梗塞, 浮腫,
6	5章	5章, 退行性病変; 萎縮, 変性
7	1～5章	後期中間試験
①	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業
8	5章	5章, 退行性病変; 加齢的变化, 代謝異常, 壊死とアポトーシス
9	6章	6章, 進行性変化; 肥大と増殖, 再生, 化生
10	6章	6章, 移植, 創傷治癒
11	7章	7章, 炎症の一般, 炎症の分類
12	8章	8章, 腫瘍とは, 腫瘍の一般, 良性腫瘍, 悪性腫瘍
13	9章	9章, 免疫異常, (免疫の仕組み, 免疫不全, 自己免疫異常), アレルギー
14	10章	10章, 先天異常 (先天性異常総論, 遺伝性疾患, 染色体異常)
15	5章～10章	後期期末試験
②	統合教育科目Ⅱ	振り返り授業

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床医学総論 I
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	千木良 美歩
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	適切な施術に向けて必要な医療面接技法や診察法、症候にかかわる知識を習得することを目的とする。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	3分の2以上の出席で受験資格を得る。配布資料は再配布はしないので管理をして下さい。
11. 教科書	『臨床医学総論』東洋療法学校協会篇 医歯薬出版株式会社 『新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)』東洋療法学校協会
12. 副読本	『フィジカルアセスメントがみえる』メディック メディア 『臨床医学各論』東洋療法学校協会篇 医歯薬出版株式会社
13. 推薦参考図書	『診察と手技がみえる vol.1 第2版』メディック メディア

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第1章 診察の概要	診察の意義、診察の一般的心得 関連用語の理解 診察法の種類 診察の順序 記録の目的と内容
2	第2章 診察の方法	医療面接（病歴聴取）
3		視診 触診 打診 聴診 測定法
4		神経系の診察
5	第3章 生命徴候（バイタルサイン）の診察	体温 脈拍 血圧 呼吸
6	第4章 全身の診察	顔貌、顔色 精神状態 言語 身体測定 体型・体格
7		栄養状態 姿勢と体位 歩行
8		皮膚、粘膜、皮下組織 爪の状態 リンパ節 その他の一般状態
9	第5章 局所の診察	頭部 顔面 眼 鼻
10	第5章 局所の診察	耳 口腔 頸部
11		胸部 乳房
12		肺・胸膜
13		心臓 腹部
14		背部 四肢
①	統合教育科目Ⅱ	総復習
②	統合教育科目Ⅱ	総復習
15		期末試験
③	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	臨床医学総論Ⅱ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 後期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	益子 勝良
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	適切な治療に必要な診察方法や症候に関わる知識の習得を目指す。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	受験資格を得るには3分の2以上の出席が必要です。 プリント等の再配布はしないので、なくさないようにしてください。
11. 教科書	『臨床医学総論』 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
12. 副読本	『臨床医学各論』 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第6章 神経系の診察	感覚検査法、反射検査
2	第6章 神経系の診察	反射検査、脳神経系の検査
3	第6章 神経系の診察	脳神経系の検査、髄膜刺激症状検査、その他の検査
4	第7章 運動機能検査	運動麻痺、筋肉の異常、不随意運動
5	第7章 運動機能検査	不随意運動、協調運動、起立と歩行、関節可動域検査
6	第7章 運動機能検査	徒手筋力検査、日常生活動作、徒手による整形外科的検査法
7	第8章 その他の診察	救急時の診察、女性の診察、小児の診察、高齢者の診察
8		後期中間試験
①	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業
9	第9章 臨床検査法	一般検査、血液生化学検査
10	第9章 臨床検査法	血液生化学検査、生理学的検査および画像診断の概要
11	第9章 臨床検査法	生理学的検査および画像診断の概要
12	第11章 治療学	概要、薬物療法
13	第11章 治療学	食事療法、理学療法、その他の療法
14	第12章 臨床心理	患者の心理、心理学的検査・評価方法、カウンセリング、その他の療法
②	統合教育科目Ⅱ	総復習
15		後期期末試験
③	統合教育科目Ⅱ	振り返り授業

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床医学各論 I
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	手塚 清恵
7. 授業形式	配布プリント、PowerPointを使用する。
8. 授業の目標	現代医学の立場から各疾患の症状についての診察法、検査法、治療法について理解し、東洋医学的知識と統合して鍼灸施術を適切に行う能力・態度を身につけることを目指す。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	授業前に教科書（履修する範囲）を一度読んでおくこと。 配布したプリントの再配布はしないので紛失しないこと。
11. 教科書	『臨床医学各論 第2版』 公益財団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
12. 副読本	『臨床医学総論 第2版』 公益財団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
13. 推薦参考図書	『病気がみえる』シリーズ メディックメディア出版

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第1章 感染症	総論、細菌感染症
2	第1章 感染症	細菌感染症、ウイルス感染症
3	第1章 感染症	ウイルス感染症、性感染症
4	第2章 消化器疾患	口腔疾患、食道疾患、胃・十二指腸疾患
5	第2章 消化器疾患	胃・十二指腸疾患、腸疾患
6	第2章 消化器疾患	腸疾患、腹膜疾患
7	第3章 肝胆膵疾患	肝臓疾患
8		確認テストの確認、前半のまとめ
9	第3章 肝胆膵疾患	胆道疾患、膵臓疾患
10	第4章 呼吸器疾患	感染性呼吸器疾患、閉塞性呼吸器疾患
11	第4章 呼吸器疾患	閉塞性呼吸器疾患、拘束性呼吸器疾患
12	第4章・第5章	その他の呼吸器疾患・原発性糸球体腎炎
13	第5章 腎・尿路疾患	原発性糸球体腎炎、腎不全、感染症
14	第5章 腎・尿路疾患	感染症、腫瘍性疾患、結石、前立腺疾患
①	統合教育科目Ⅱ	総復習
②	統合教育科目Ⅱ	総復習
15		期末試験
③	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	臨床医学各論Ⅱ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 後期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	手塚 清恵
7. 授業形式	講義（配布プリント、PowerPointを使用）
8. 授業の目標	現代医学の立場から各疾患の症状についての診察法、検査法、治療法について理解し、東洋医学的知識と統合して鍼灸施術を適切に行う能力・態度を身につけることを目指します。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	授業前に教科書（履修する範囲）を一度読んでおくようにしてください。配布したプリントの再配布はしないので、なくさないようにしてください。
11. 教科書	『臨床医学各論 第2版』 公益財団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
12. 副読本	『臨床医学総論 第2版』 公益財団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
13. 推薦参考図書	『病気がみえる』シリーズ メディックメディア出版

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第6章 内分泌疾患	下垂体疾患、甲状腺疾患
2	第6章 内分泌疾患	甲状腺疾患、副腎疾患
3	第7章 代謝・栄養疾患	糖代謝異常、脂質代謝異常
4	第7章 代謝・栄養疾患	尿酸代謝異常、その他の代謝異常症
5	第8章 整形外科疾患	総論、骨代謝性疾患・骨腫瘍
6	第8章 整形外科疾患	筋・腱疾患、形態異常、脊髄損傷
7	第8章 整形外科疾患	外傷、その他の整形外科疾患
8		後期中間試験
①	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業
9	第9章 循環器障害	心臓疾患
10	第9章 循環器障害	心臓疾患
11	第9章 循環器障害	冠動脈疾患、動脈疾患
12	第9章 循環器障害	血圧異常
13	第10章 血液・造血器疾患	赤血球疾患、白血球疾患
14	第10章 血液・造血器疾患	白血球疾患、リンパ網内系疾患、出血性素因
②	統合教育科目Ⅱ	総復習
15		後期期末試験
③	統合教育科目Ⅱ	振り返り授業

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床医学各論Ⅲ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	小野 かおり
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	各疾患の症状、診察法、検査法、治療法について理解し、東洋医学的知識と統合して鍼灸施術を適切に行う能力・態度を身につける。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	授業前に教科書を読んで予習してください。配布したプリント等の再配布はしません。
11. 教科書	『臨床医学各論 第2版』公益社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
12. 副読本	『臨床医学総論 第2版』公益社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第11章	脳血管疾患
2		脳血管疾患、感染性疾患
3		脳・脊髄腫瘍、基底角変性疾患
4		認知症性疾患、筋疾患
5		筋疾患、運動ニューロン疾患
6		運動ニューロン疾患、末梢神経性疾患、神経痛
7		神経痛、機能性疾患
8	第12章	リウマチ性疾患、膠原病
9		膠原病
10	第13章	小児科疾患、一般外科
11		麻酔科、婦人科疾患
12		皮膚疾患、眼科疾患
13		耳鼻科疾患、精神科疾患
14		心療内科、復習
15		期末試験

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	リハビリテーション学 I
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 後期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	後藤 陽正
7. 授業形式	座学
8. 授業の目標	医療従事者としてのリハビリテーションを理解させる。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	解らないところは放置せず、積極的に質問し、解決するように。
11. 教科書	リハビリテーション医学 第4版 東洋療法学校協会監修 医歯薬出版株式会社
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第1章 リハビリテーション総説	A. リハビリテーションと障害
2	第1章 リハビリテーション総説	B. リハビリテーション医学と医療
3	第1章 リハビリテーション総説	C. 障害の評価1
4	第1章 リハビリテーション総説	C. 障害の評価2
5	第1章 リハビリテーション総説	C. 障害の評価3
6	第1章 リハビリテーション総説	D. 医学的リハビリテーション1
7	第1章 リハビリテーション総説	D. 医学的リハビリテーション2
8	第1章 リハビリテーション総説	D. 医学的リハビリテーション3
9		後期中間試験
①	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業
10	第1章 リハビリテーション総説	D. 医学的リハビリテーション4
11	第3章 運動のしくみ	A. 運動学の基礎
12	第3章 運動のしくみ	B. 身体各部の機能1
13	第3章 運動のしくみ	B. 身体各部の機能2
14	第3章 運動のしくみ	B. 身体各部の機能3
②	統合教育科目Ⅱ	総復習
15		後期期末試験
③	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	リハビリテーション医学Ⅱ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	後藤 陽正
7. 授業形式	座学
8. 授業の目標	医療従事者としてのリハビリテーションを理解させる。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	解らないところは放置せず、積極的に質問し、解決するように。
11. 教科書	リハビリテーション医学 第4版 東洋療法学校協会監修 医歯薬出版株式会社
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単元	概要
1	第2章各疾患のリハビリテーション	A. 脳卒中のリハビリテーション1
2	第2章各疾患のリハビリテーション	A. 脳卒中のリハビリテーション2
3	第2章各疾患のリハビリテーション	A. 脳卒中のリハビリテーション3
4	第2章各疾患のリハビリテーション	B. 脊髄損傷のリハビリテーション1
5	第2章各疾患のリハビリテーション	B. 脊髄損傷のリハビリテーション2
6	第2章各疾患のリハビリテーション	C. 切断のリハビリテーション
7	第2章各疾患のリハビリテーション	D. 小児のリハビリテーション
8	第2章各疾患のリハビリテーション	E. 骨関節疾患のリハビリテーション1
9	第2章各疾患のリハビリテーション	E. 骨関節疾患のリハビリテーション2
10	第2章各疾患のリハビリテーション	F. 関節リウマチのリハビリテーション
11	第2章各疾患のリハビリテーション	G. 末梢神経障害のリハビリテーション
12	第2章各疾患のリハビリテーション	H. パーキンソン病のリハビリテーション
13	第2章各疾患のリハビリテーション	I. 呼吸器疾患のリハビリテーション
14	第2章各疾患のリハビリテーション	J. 心疾患のリハビリテーション
15		期末試験

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	衛生学・公衆衛生学 I
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	小野 かおり
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	集団を対象とした様々な健康課題を社会と環境との視点から理解する。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	授業前に教科書を読み予習すること。配布したプリント等の再配布はしません。
11. 教科書	『衛生学・公衆衛生学 第2版』公益社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第1章	衛生学・公衆衛生学とは、衛生学・公衆衛生学の歴史、衛生学・公衆衛生学の活動と意義
2	第2章	健康の概要
3		健康管理
4	第13章	保健統計の意義
5		おもな保健統計とその意義
6		主要な保健統計指標
7	第9章	成人・高齢者保健の意義、加齢と老化、生活習慣病の特徴と対策
8		生活習慣病の特徴と対策、高齢者の保健福祉対策
9		介護保険、難病対策の現状
10	第7章	母子保健の意義、母体の健康
11		乳幼児の健康、母体保護と家族計画、少子化問題と子育て支援
12	第5章	産業保険の意義、労働衛生行政
13		労働環境と健康、労働災害とその対策、業務上疾病とその対策
14	第6章	精神保健の意義、精神の保健、精神障害の現状と分類、精神障害の現状と分類
①	統合教育科目 II	総復習
15		期末試験
②	統合教育科目 II	試験結果と振り返り授業

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	衛生学・公衆衛生学Ⅱ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	菊地 裕一
7. 授業形式	講義形式
8. 授業の目標	国家試験に対応できる知識の修得。施術者として衛生環境に配慮することを意識させる。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	日々の復習を怠らないこと。国家試験に出題される頻度が多い単元を扱っていきます。単元によっては他科目との共通点のある部分もあるので、各自忘れていたことは都度調べる癖をつけること。配布資料は常に整理して復習しやすいように工夫しておくこと。
11. 教科書	衛生学・公衆衛生学 第2版（医歯薬出版株式会社）
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	公衆衛生がみえる2024-2025 メディックメディア

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第3章 健康とライフスタイル	食生活と生活習慣病との関連、食品の分類、食品の安全性、食中毒について基礎的な内容を抑える。
2		
3		
4	第4章 環境と健康	日常生活において環境が自分たちの生活にどう影響しているか。公害、上下水道、有害物質について学ぶ。
5		
6		
7	第8章 学校保健	学校保健の意義や学校において予防すべき感染症について学ぶ。
8	第10章 感染症とその対策	感染症の成立、感染症の種類と現状、感染症対策の概略（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、検疫法、予防接種法）について把握する。
9		
10		
11	第11章 消 毒	消毒の意義、消毒の種類と方法を知ることにより、病原体や対象物を考慮し、院内感染対策など目的に合わせた消毒方法の選択を把握する。
12		
13	第12章 疫 学	疾病は、疾病の発症に関わる要因、原因が解らなければ予防することは出来ない。疫学とは、疾病の要因や原因の究明を目的とした調査研究であり、調査の基本的考え方、調査対象、調査方法、調査結果の分析の概略について把握する。
14		
15		期末試験

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	医療概論
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	塩野 拓人
7. 授業形式	講義、ICT機器
8. 授業の目標	我が国の医療制度、医療従事者に求められる倫理等を学ぶことを通じて、医療の概要を理解する。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	受験資格を得るためには3分の2以上の出席が必要となる。 授業中のタブレット使用は可、スマートフォン使用は禁止です。
11. 教科書	『医療概論』 社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版 (授業で配布するプリントに従って講義を行う。)
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第2章 現代の医学と医療	・現代の医療制度（医療経済、医療保険、介護サービス行政等）を学ぶ。
2		・現代の医療制度（医療経済、医療保険、介護サービス行政等）を学ぶ。
3		・現代の医療制度（医療経済、医療保険、介護サービス行政等）を学ぶ。
4		・現代の医療制度（医療経済、医療保険、介護サービス行政等）を学ぶ。
5	第3章 医療従事者の倫理	・医療倫理を学ぶ。
6		・医療倫理を学ぶ。
7		・医療倫理を学ぶ。
8		期末試験

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	関係法規
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	塩野 拓人
7. 授業形式	講義、ICT機器
8. 授業の目標	あはき師等に関する法令および医療に係る各種の関係法規について理解する。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	受験資格を得るためには3分の2以上の出席が必要となる。 授業中のタブレット使用は可、スマートフォン使用は禁止です。
11. 教科書	『関係法規 第7版』 社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版 (授業で配布するプリントに従って講義を行う。)
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	序論 法とは何か 第1章 あはき師等に関する法律	・法の意義、体系を学ぶ。あはき法（法制定の目的、免許等）を学ぶ。
2	第1章 あはき師等に関する 法律	・あはき法（免許、申請等）を学ぶ。
3		・あはき法（業務、届出、設備基準等）を学ぶ。
4		・あはき法（名称制限、広告制限、罰則等）を学ぶ。
5	第2章 関係法規	・医療に係る各種の関係法規（医事法規等）を学ぶ。
6		・医療に係る各種の関係法規（薬事法規、衛生関係法規等）を学ぶ。
7		・医療に係る各種の関係法規（社会福祉関係法規、社会保険関係法規等）を学ぶ。
8		期末試験

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	社会保障制度及び職業倫理
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年 後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	塩野 拓人
7. 授業形式	講義、ICT機器
8. 授業の目標	我が国の社会保障制度、医療従事者に求められる職業倫理等を学ぶことを通じて、これらと関連するはり師、きゅう師の役割について理解する。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	受験資格を得るためには3分の2以上の出席が必要となる。
11. 教科書	『医療概論』 公益社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社 『関係法規 第7版』 公益社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		社会保障制度の概要
2		社会保障制度の概要
3		医療保険制度の概要
4		あはき療養費の受領委任制度の概要
5		医療従事者の倫理の概要
6		医療従事者の倫理の概要
7		後期期末試験
8		関連分野の問題練習
9		関連分野の問題演習
10		関連分野の問題演習
11		関連分野の問題演習
12		関連分野の問題演習
13		関連分野の問題演習
14		関連分野の問題演習
15		関連分野の問題演習

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	はりきゅう理論Ⅰ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等5年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 後期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	菊地 裕一
7. 授業形式	講義形式
8. 授業の目標	鍼灸治療の効果を考える上で、知っておかなければならない生理学の知識と治療効果との関係性を理解する。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	授業内で配布するプリント類は各自整理し復習しやすいように工夫すること。
11. 教科書	『はりきゅう理論 第3版』 教科書執筆小委員会著 医道の日本社 『生理学 第3版』 公益社団法人東洋療法学校協会 医歯薬出版
12. 副読本	『解剖生理 第1版』 公益社団法人東洋療法学校協会 医歯薬出版
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		感覚について（種類と分類・体性感覚）
2		痛みと鍼灸の関係性について
3		触圧覚・温覚と鍼灸の関係性について
4		生体防御機構について（免疫・炎症について） 痛みの種類について
5		熱傷とお灸について
6		鍼灸治療に関わる体表の反応について
①	統合教育科目Ⅰ	総復習
7		後期中間試験
②	統合教育科目Ⅰ	試験結果と振り返り授業
8		鍼鎮痛の概論。内因性オピオイド。
9		全身性鎮痛（SIA。下行性痛覚抑制系）全身性鎮痛（DNIC）
10		鍼と運動の調節について
11		消化器系や泌尿器と鍼（自律神経反射【体性-内臓反射】）
12		リラクゼーションと鍼灸
13		鍼灸と血液循環に関する効果について
14		リスク管理
③	統合教育科目Ⅰ	総復習
15		後期期末試験
④	統合教育科目Ⅰ	振り返り授業

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	はりきゅう理論Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等9年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	石丸 幸宏
7. 授業形式	講義・問題演習
8. 授業の目標	鍼や灸の効果機序を理解し臨床に生かすことと、道具の種類や術式の基本を理解し、国家試験に必要な知識を見つけることを目標とする。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	授業中に実施した問題や、模試の問題を見直しを必ず実施して。
11. 教科書	『はりきゅう理論 第3版』 教科書執筆小委員会著 医道の日本社
12. 副読本	『生理学』 公益社団法人東洋療法学校協会 医歯薬出版 『図解鍼灸臨床手技マニュアル』 尾崎昭弘著 医歯薬出版株式会社
13. 推薦参考図書	『鍼灸臨床最新科学 メカニズムとエビデンス』 矢野 忠・川喜田 健司編 医歯薬出版株式会社

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		循環系と鍼（軸索反射。一酸化窒素。筋循環と鍼。心拍数および血圧と鍼）
2		運動器系と鍼
3		消化器系と鍼
4		泌尿器系と鍼。
5		リラクセーションと鍼灸
6		生体防御系（免疫）と鍼灸 熱傷・炎症について
7		感覚（種類による受容器・神経線維・伝導路の違い）
8		痛覚について
9		体表の反応について
10		鍼鎮痛について
11		鍼灸の術式について
12		鍼灸の道具について(古代九鍼など)
13		リスク管理（医療過誤、鍼灸の適応・禁忌）について
14		自律神経について
15		期末試験

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	経絡経穴概論 I ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等5年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	菊地 裕一
7. 授業形式	講義形式
8. 授業の目標	経絡・経穴とは何かを理解する。取穴時に使用する解剖学用語に慣れる。各要穴を覚える。
9. 成績評価	期末試験に平常点（確認テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	今まで皆さんが学習してきた分野にはないような言葉や漢字が頻出しますので、わからない漢字には必ずふりがなを記載してください。
11. 教科書	『新版 経絡経穴概論 第2版』公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社
12. 副読本	『解剖学 第2版』公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社 『新版 東洋医学概論』公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社 『針灸学[経穴篇]』天津中医薬大学、学校法人後藤学園（編）東洋学術出版社
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第1章経絡・経穴の基礎	経絡経穴概論とはどんな教科か。経絡、経穴とは何か。
2		陰陽と五行の概要。3. 経絡の概要 1) 経絡について 2) 正経十二経脈の流注
3	第2章経脈・経穴	体表指標について
4	第1章経絡・経穴の基礎	6) 経筋、皮部について 骨度法について
5		4. 経穴の概要 1) 腧穴について 2) 経穴について 3) 経穴部位の決定方式 (1) 原穴について
6		(1) 郄穴について
7		(1) 絡穴について
8	第3章経絡・経穴の現代的研究	1. 経絡現象 2. 経穴の概念と現代科学的研究
9	第1章経絡・経穴の基礎	(1) 募穴・背部腧穴について
10		(2) 五腧穴・五行穴
11		(1) 奇経の郄穴・四総穴 (4) 八会穴
12		(5) 八脈交会穴 (6) 交会穴 (7) 下合穴 6) 禁鍼穴・禁灸穴
13	第2章経脈・経穴	奇経八脈を構成する経穴
14	第1章経絡・経穴の基礎	要穴のおさらい
①	統合教育科目 I	総復習
②	統合教育科目 I	総復習
15		期末試験
③	統合教育科目 I	試験結果と振り返り授業

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	経絡経穴概論Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等9年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	石丸 幸宏
7. 授業形式	PCを用いてPowerPointで講義、課題による復習
8. 授業の目標	東洋医学の言葉に慣れ親しむ。経絡の役割や流注について理解し、実際に身体を走行する経絡のイメージができるようにする。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	教科書や資料の他に必要なものがあればその都度伝えますので、忘れないようにしてください。分からない言葉などあれば、授業外でも積極的に質問してください。
11. 教科書	『新版 経絡経穴概論 第2版』公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社 『新版 東洋医学概論』公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	『針灸学 [経穴編]』天津中医薬大学・学校法人後藤学園 編 東洋学術出版社『全訳 経絡学』李鼎著 浅野周訳 たにぐち書店

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	東洋医学概論 p 13-21、38-72	授業ガイダンス 東洋医学の概要
2	東洋医学概論P74-127	臓腑の概要
3		
4	東洋医学概論 p 150-157 経絡経穴概論 p 2-7	経絡の種類・十二経脈の流注について
5	経絡経穴教科書P52、60	経脈の走行と異常について（手の太陰肺経・手の陽明大腸経）
6	経絡経穴教科書P72、92	経脈の走行と異常について（足の陽明胃経・足の太陰脾経）
7	経絡経穴教科書P104、110	経脈の走行と異常について（手の少陰心経・手の太陽小腸経）
8	経絡経穴教科書P120、150	経脈の走行と異常について（足の太陽膀胱経・足の少陰腎経）
9	経絡経穴教科書P164、170	経脈の走行と異常について（手の厥陰心包経・手少陽三焦経）
10	経絡経穴教科書P182、202	経脈の走行と異常について（足の少陽三焦経・足の厥陰肝経）
11	経絡経穴教科書 P26, 40, 212-213 東洋医学概論 p 154-155	奇経八脈の走行と異常について（任脈・督脈）
12		奇経八脈の走行と異常について（任脈・督脈）
13		奇経八脈の走行と異常について（陰蹻脈・陽蹻脈）
14		奇経八脈の走行と異常について（陰蹻脈・陽蹻脈）
①	統合教育科目 I	総復習
15		期末試験
②	統合教育科目 I	試験結果と振り返り授業

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	東洋医学概論 I ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等18年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 後期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	千木良 美歩
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	東洋医学独自の概念を知り、東洋医学的な考え方を理解することを目標とする。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	3分の2以上の出席で受験資格を得る。また、授業内の課題の提出状況も成績評価に反映する。
11. 教科書	『東洋医学概論』 社団法人 東洋療法学校協会篇 医道の日本社
12. 副読本	『東洋医学臨床論〈はりきゅう篇〉』 社団法人 東洋療法学校協会篇 医道の日本社
13. 推薦参考図書	『針灸学[基礎篇]』 『針灸学[臨床篇]』 日中共同編集 東洋学術出版社

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第2章 生理と病理	第1節 生理物質と神 精
2		第1節 生理物質と神 気
3		第1節 生理物質と神 気
4		第1節 生理物質と神 血
5		第1節 生理物質と神 津液
6		第1節 生理物質と神 生理物質の相互関係
7		後期中間試験
①	統合教育科目 I	試験結果と振り返り授業
8	第2章 生理と病理	第1節 生理物質と神 神
9		第1節 生理物質と神 人体における陰陽
10		第2節 蔵象 臓腑 肝
11		第2節 蔵象 肝 心
12		第2節 蔵象 脾 肺
13		第2節 蔵象 肺 腎
14		第2節 蔵象 腎
15		後期期末試験
②	統合教育科目 I	振り返り授業

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	東洋医学概論Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等9年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	石丸 幸宏
7. 授業形式	PCでPowerPointによる講義、課題に復習
8. 授業の目標	臓腑の病証を理解し、患者の症状からどの臓腑が原因となるかを把握できるようになる。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	東洋医学は「漢字」の文化圏である中国から伝来している。故に、漢字の意味を調べることで理解が深まります。漢字を調べるようにすること。
11. 教科書	『新版 東洋医学概論』
12. 副読本	『新版 東洋医学臨床論（はりきゅう編）』 『鍼灸技術ガイドⅠ』
13. 推薦参考図書	『中医学の仕組みがわかる基礎講義』 兵頭明著 医道の日本社

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第2章2節蔵象	腎の生理作用・特性・関連する領域について（p115～120）
2	第2章2節蔵象	膀胱の生理作用・特性。腎と膀胱の相互関係。三焦の生理作用（p115～127）
3	第2章2節蔵象	五臓の相互関係（P127～149）
4	第2章4節病因病機	病因（外感病因）について（p161～167）
5	第2章4節病因病機	病因（内傷病因・その他）、病機、三毒説について（p168～173）
6	第5章1節弁証	弁証について（p270～281）
7	第2章2節蔵象	肝・胆の病証（p77～87、276）
8	第2章2節蔵象	心・小腸の病証（p87～97、276～277）
9	第2章2節蔵象	脾・胃の病証（p97～106、277～278）
10	第2章2節蔵象	肺・大腸の病証（p106～115、278）
11	第2章2節蔵象	腎・膀胱の病証（p115～125、278～279）
12	第2章2節蔵象	臓腑の相互からくる病証（P127～149）
13	第2章2節蔵象	臓腑の相互からくる病証（P127～149）
14	第2章3節経絡	経絡（p150～157）
①	統合教育科目Ⅱ	総復習
15		期末試験
②	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	東洋医学概論Ⅲ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等18年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 後期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	千木良美歩
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	東洋医学独自の概念を知り、東洋医学的な考え方を理解することを目標とする。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	3分の2以上の出席で受験資格を得る。また、授業内の課題の提出状況も成績評価に反映する。
11. 教科書	『東洋医学概論』 社団法人 東洋療法学校協会篇 医道の日本社
12. 副読本	『東洋医学臨床論〈はりきゅう篇〉』 社団法人 東洋療法学校協会篇 医道の日本社
13. 推薦参考図書	『針灸学[基礎篇]』 『針灸学[臨床篇]』 日中共同編集 東洋学術出版社

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第2章 生理と病理	第3節 経絡 IV. 経絡の病理 十二経脈の病証
2		第3節 経絡 IV. 経絡の病理 十二経脈の病証
3		第3節 経絡 IV. 経絡の病理 十二経脈の病証
4		第4節 経絡 IV. 経絡の病理 十二経脈の病証
5		第3節 経絡 IV. 経絡の病理 奇経八脈の病証
6		第3節 経絡 IV. 経絡の病理 奇経八脈の病証
7	第5章 弁証論治	第1節 弁証 I. 弁証方法 1) 八綱弁証
8		後期中間試験
①	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業
9	第5章 弁証論治	第1節 弁証 I. 弁証方法 6) 六経弁証
10		第1節 弁証 I. 弁証方法 7) 衛気営血弁証
11		第1節 弁証 I. 弁証方法 8) 三焦弁証
12		第2節 論治 II. 治法
13		第2節 論治 II. 治法
14		第2節 論治 III. 治療法の概要 2) 湯液
②	統合教育科目Ⅱ	総復習
15		後期期末試験
③	統合教育科目Ⅱ	振り返り授業

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	生体観察 ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等5年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 後期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	菊地 裕一
7. 授業形式	ICTと配布プリントでの講義（教室）、演習形式（教室）
8. 授業の目標	手よき手目した運動器の知識を中心に、人体を立体構造的に理解する。国家試験や臨床に必要な知識を観察しながら身につけ、他科目との繋がりを確認する。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	演習の授業ではKCや短パン等を使用する。内容や必要なものは授業内やteamsでアナウンスするのでよく確認して出席すること。
11. 教科書	『解剖学 第2版』公益社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
12. 副読本	『ネッター解剖学アトラス 第4版』F.H.Netter 著 相磯 貞和 訳 南江堂
13. 推薦参考図書	『運動療法のための機能解剖学的触診技術』林 典雄 著 メジカルビュー社 『改訂版 ボディ・ナビゲーション』Andrew Biel著 医道の日本社 その他 適宜授業内で紹介します。

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第10章 運動器系	ガイダンス/運動器および関連する知識の復習（上肢帯・上肢）
2		運動器および関連する知識の復習（上肢帯・上肢）
3		骨・筋の触察（上肢）（演習形式）
4		運動器および関連する知識の復習（下肢帯・下肢）
5	第10章 運動器系 第2～6章（内臓器系）	臓器の位置と体表への投影
6	第10章 運動器系	骨・筋の触察（下肢）（演習形式）
7		後期中間試験
①	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業
8	第10章 運動器系	運動器および関連する知識の復習（体幹）
9		骨・筋の触察（体幹）（演習形式）
10		運動器および関連する知識の復習（頭頸部）
11		骨・筋の触察（頭頸部）（演習形式）
12		複数の運動器系で構成される構造物（〇〇三角、〇〇窩）
13		複数の運動器系で構成される構造物の触察（演習形式）
14		体表から触知できる血管（前半 講義形式/後半 演習形式）
②	統合教育科目Ⅱ	総復習
15		後期期末試験
③	統合教育科目Ⅱ	振り返り授業

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	はりきゅう適応判断 ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等22年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	手塚 清恵
7. 授業形式	講義・問題演習
8. 授業の目標	現代医学の立場から各疾患の症状・診察法・検査法・治療法を理解する。 現代医学・東洋医学の知識を統合して鍼灸施術を適切に行う能力を身につける。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	授業内で取り組んだ問題は必ず復習すること。
11. 教科書	『新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)』（公社）東洋療法学校協会編 南江堂 『新版 経絡経穴概論 第2版』（公社）東洋療法学校協会編 医道の日本社 『臨床医学総論 第2版』（公社）東洋療法学校協会編 医歯薬出版 『臨床医学各論 第2版』（公社）東洋療法学校協会編 医歯薬出版
12. 副読本	『図解 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ』矢野忠編集 文光堂
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		絞扼神経障害
2		絞扼神経障害
3		頸肩部・肩甲上肢の疾患
4		頸肩部・肩甲上肢の疾患
5		上肢の疾患
6		上肢の疾患
7		腰部・腰下肢の疾患
8		腰部・腰下肢の疾患
9		下肢の疾患
10		下肢の疾患
11		その他の疾患
12		その他の疾患
13		その他の疾患
14		その他の疾患
15		期末試験

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	病態生理学 ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等22年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年 後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	手塚 清恵
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	各疾患の症状についての診察法・検査法・治療法を理解し、東洋医学的知識と統合して鍼灸施術を適切に行う能力・態度を身につける。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	問題を一題ずつしっかりと解き、教科書や授業プリントなどを参考に問題解説をつくること。
11. 教科書	『臨床医学各論』 社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
12. 副読本	『臨床医学総論』 社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
13. 推薦参考図書	『病気が見えるシリーズ』 メディックメディア出版

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		問題演習とまとめ（第1章、第2章）
2		問題演習とまとめ（第3章、第4章）
3		問題演習とまとめ（第5章、第6章、第7章）
4		問題演習とまとめ（第8章、第9章）
5		問題演習とまとめ（第10章、第11章）
6		問題演習とまとめ（第12章、第13章）
7		後期期末試験
8		問題演習とまとめ（第1章、第2章）
9		問題演習とまとめ（第3章、第4章）
10		問題演習とまとめ（第5章、第6章、第7章）
11		問題演習とまとめ（第8章、第9章）
12		問題演習とまとめ（第10章、第11章）
13		問題演習とまとめ（第12章、第13章）
14		問題演習とまとめ（総合問題）
15		問題演習とまとめ（総合問題）

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	東洋医学臨床Ⅰ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等25年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	篠原 勝
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	症状から、徒手検査などを使って診断（病名）と治療を考える力をつける。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	覚える事より、考える・理解するようにして下さい。宿題は教科書やネットを駆使して解答して下さい。宿題の目的は自分で調べる。復習するという事です。宿題は必ずやること。
11. 教科書	新版『東洋医学臨床論（はりきゅう編）』公益社団法人 東洋療法学校協会編 南江堂
12. 副読本	『新版 東洋医学概論』 公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単元	概要
1	第2章各論第1節疼痛	西洋医学に基づく病態把握 I. 疼痛概説、II. 頭痛
2		西洋医学に基づく病態把握 III. 顔面痛、IV. 関節痛
3		西洋医学に基づく病態把握 V. 頸肩腕痛、VI. 上肢痛
4		西洋医学に基づく病態把握 VII. 肩関節痛、VIII. 腰下肢痛
5		西洋医学に基づく病態把握 IX. 腰痛、X. 下肢痛
6		西洋医学に基づく病態把握 XI. 膝痛
7		西洋医学に基づく病態把握 XII. 胸痛～XIII. 腹痛
8	第2節臓腑と関連する症候	西洋医学に基づく病態把握 2-1 肝系統 I. 眼精疲労～III. めまい。
9		東洋医学的な疾患の考え方。
10		東洋医学に基づく病態把握 I. 疼痛概説～IV. 関節痛
11		東洋医学に基づく病態把握 V. 頸肩腕痛～XI. 膝痛
12		グループセッション
13		東洋医学に基づく病態把握 XII. 胸痛～2-1 肝系統III. めまい
14		グループセッション
①	統合教育科目Ⅱ	総復習
②	統合教育科目Ⅱ	総復習
15		期末試験
③	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	東洋医学臨床Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等25年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 後期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	篠原 勝
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	西洋医学・東洋医学ともに診断力から治療方法迄の理解力を高める。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	授業に関連して宿題を出すので必ず提出すること。
11. 教科書	『新版東洋医学臨床論（はりきゅう編）』公益社団法人東洋療法学校協会 南江堂
12. 副読本	『新版 東洋医学概論』公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社 『新版経絡経穴概論』公益社団法人東洋療法学校協会編 医道の日本社
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単元	概要
1	第2章 各論	第2節臓腑と関連する症候 2-2心系統Ⅰ. 動悸・息切れ～Ⅲ睡眠障害の西洋医学に基づく病態把握と治療
2		2-3脾系統Ⅰ食欲不振～Ⅲやせ（るい瘦）の西洋医学に基づく病態把握と治療
3		2-3脾系統Ⅳ悪心・嘔吐～Ⅵ下痢の西洋医学李基づく病態把握と治療
4		3脾系統Ⅶ歯痛～4肺系統Ⅱ呼吸困難の西洋医学李基づく病態把握と治療
5		4肺系統Ⅲ鼻閉・鼻汁～5腎系統Ⅱ耳鳴り・難聴の西洋医学李基づく病態把握と治療
6	第3節 全身の症候	5腎系統Ⅲ排尿障害～第3節全身の症候Ⅰ疲労と倦怠の西洋医学李基づく病態把握と治療
7		Ⅱ発熱～Ⅳのぼせの西洋医学李基づく病態把握と治療
8		Ⅴ浮腫～Ⅵ掻痒感（痒み）・肌荒れ・発疹の西洋医学李基づく病態把握と治療
9		後期中間試験
①	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業
10		内熱・内火（心火亢盛、痰火擾心）による心悸、陰虚陽亢（肝陽上亢）による高血圧、痰熱（食滞胃脘、胃熱）による不眠、中間前復習
11		食滞胃脘による食欲不振、胃陰虚による食欲不振、肝胃不和による悪心・嘔吐、熱秘・氣秘・虚秘・冷秘による便秘、肝火犯肺による咳嗽、腎不納気による喘、血熱下燥による脱毛、
12		東洋医学的考え方のグループセッション（243CD, 249D, 254B）
13		膀胱湿熱による小便頻数、癰閉、命門火衰による陽萎、大腸湿熱による発熱、冷え、血熱による掻痒感
14		東洋医学的考え方のグループセッション（330B, 342(3), 358C, 367(4)）
②	統合教育科目Ⅱ	総復習
15		後期期末試験
③	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	東洋医学臨床Ⅲ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等14年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	塩野 拓人
7. 授業形式	講義、ICT機器
8. 授業の目標	東洋医学的な診察法（四診法）を理解するとともに、診察所見から東洋医学的な病態を推測するための基礎的な知識を習得する。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	受験資格を得るためには3分の2以上の出席が必要となる。 授業中のタブレット使用は可、スマートフォン使用は禁止です。
11. 教科書	『新版 東洋医学概論』 社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社
12. 副読本	『鍼灸学（基礎篇）』 日中共同編集 東洋学術出版社 『図解 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ』 矢野忠（編） 文光堂
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		・四診の概要、望診を学ぶ。
2		・望診（主に舌診）を学ぶ。
3		・望診（主に舌診）を学ぶ。
4		・望診（主に舌診）、聞診を学ぶ。
5		・東洋医学的な問診（主訴、基本的問診事項）を学ぶ。
6		・東洋医学的な問診（基本的問診事項）を学ぶ。
7		・東洋医学的な問診（基本的問診事項）を学ぶ。 ・確認テスト
8		・東洋医学的な問診（その他の問診事項等）を学ぶ。
9		・東洋医学的な問診（その他の問診事項等）を学ぶ。
10		・東洋医学的な問診（その他の問診事項等）を学ぶ。
11		・切診（反応、腹診、切経、脈診等）を学ぶ。
12		・切診（主に脈診）を学ぶ。
13		・切診（主に脈診）を学ぶ。
14		・切診（主に脈診）を学ぶ。
①	統合教育科目Ⅱ	総復習
②	統合教育科目Ⅱ	総復習
15		期末試験
③	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	東洋医学臨床Ⅳ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等22年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	手塚清恵/塩野拓人
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	各症候について、西洋医学・東洋医学ともにその病態と診察法・治療法を理解する。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	情報の暗記をするだけでなく、各症候の病態生理を今まで学んだ知識を生かして理解すること。分からないことは振り返り、各論や東概との繋がりを常に意識すること。
11. 教科書	『新版 東洋医学臨床論（はりきゅう編）』東洋療法学校協会編 南江堂
12. 副読本	『新版 東洋医学概論』東洋療法学校協会編 医道の日本社 『臨床医学各論 第2版』東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社 『図解 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ』矢野忠編集 文光堂
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第4節 その他の症候	顔面神経麻痺、歩行異常、口渇、出血傾向
2	第4節 その他の症候	
3	第5節 女性特有の症候	概説、月経異常、性器出血、帯下、不妊症、つわり、骨盤位(逆子)、 乳汁分泌不全
4	第5節 女性特有の症候	
5	第5節、第6節	
6	第6節 小児特有の症候	疳の虫、夜尿症、小児喘息
7	第7節 老年特有の症候	概説、認知症
8	第4節 その他の症候	顔面麻痺、補講以上、口渇、出血傾向 (東洋医学に基づく病態把握・治療・生活指導)
9	第4節 その他の症候	
10	第5節 女性特有の症候	概説、月経異常、性器出血、帯下、不妊症、つわり、骨盤位(逆子)、 乳汁分泌不全 (東洋医学に基づく病態把握・治療・生活指導)
11	第5節 女性特有の症候	
12	第5節 女性特有の症候	
13	第6節 小児特有の症候	概説、疳の虫、夜尿症、小児喘息(東洋医学に基づく病態把握・治療・生活指導)
14	第7節 老年特有の症候	概説、認知症 (東洋医学に基づく病態把握・治療・生活指導)
15		期末試験

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	東洋医学臨床応用 ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等18年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年 後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	千木良 美歩
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	国家試験に対応する東洋医学的知識の確認と問題を理解でき、答えに導ける応用力を身につけることを目標とする。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	3分の2以上の出席で受験資格を得る。事前課題などを実施の上授業に臨むようにする。
11. 教科書	『東洋医学概論』『東洋医学臨床論』社団法人 東洋療法学校協会篇 医道の日本社
12. 副読本	『経絡経穴概論』社団法人 東洋療法学校協会篇 医道の日本社
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	国家試験対策	問題練習と復習
2		問題練習と復習
3		問題練習と復習
4		問題練習と復習
5		問題練習と復習
6		後期期末試験
7		問題練習と復習
8		問題練習と復習
9		問題練習と復習
10		問題練習と復習
11		問題練習と復習
12		問題練習と復習
13		問題練習と復習
14		問題練習と復習
15		問題練習と復習

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	社会鍼灸学 ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等9年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	益子 勝良
7. 授業形式	講義、問題演習
8. 授業の目標	地域における鍼灸師の立場・役割を理解し、それに必要な知識を身につける。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	常に必要な教科書を準備し、問題に対し真摯に取り組む。また、期日までにしっかりと課題を行っていく。
11. 教科書	『社会あはき学』・『臨床医学総論』・『臨床医学各論』 医歯薬出版
12. 副読本	プリント
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	あはき師を取り巻く環境	医療制度と現状
2	地域で期待されるあはき師の業務	施術所におけるあはき治療
3	地域で期待されるあはき師の業務	在宅医療における愁訴鑑別
4	地域で期待されるあはき師の業務	在宅医療における愁訴鑑別
5	現在社会におけるあはき師の役割	感染症についての解説・問題演習
6	現在社会におけるあはき師の役割	消化器疾患についての解説・問題演習
7	現在社会におけるあはき師の役割	肝胆膵疾患についての解説・問題演習
8	現在社会におけるあはき師の役割	肝胆膵疾患についての解説・問題演習
9	現在社会におけるあはき師の役割	呼吸器疾患についての解説・問題演習
10	現在社会におけるあはき師の役割	呼吸器疾患についての解説・問題演習
11	現在社会におけるあはき師の役割	腎尿路疾患についての解説・問題演習
12	現在社会におけるあはき師の役割	内分泌疾患についての解説・問題演習
13	現在社会におけるあはき師の役割	内分泌疾患についての解説・問題演習
14	現在社会におけるあはき師の役割	整形外科疾患についての解説・問題演習
15		期末試験

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	基礎実技Ⅰ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等22年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	手塚 清恵
7. 授業形式	実技
8. 授業の目標	鍼治療の基本的な知識を学び、体の様々な部位に安全に目的の深さや角度で刺鍼できる技術を身につける。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	清潔なKCを着用し、身だしなみを整える。準備や後片付けをしっかりと行う。
11. 教科書	『はりきゅう理論』社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社 『鍼灸安全対策マニュアル』鍼灸安全対策ガイドライン2020年準拠 医歯薬出版（株） 『図解鍼灸臨床手技マニュアル第2版』尾崎昭弘著 医歯薬出版（株）
12. 副読本	『新版 経絡経穴概論』社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社 『図解鍼灸療法技術ガイドⅠ』矢野忠編集主幹 文光堂
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		イントロダクション（図解鍼灸p9-27、手指衛生など（はき理論p34～35、安全マニュアルp119-135）
2		現行刺鍼手技（図解鍼灸p59-73、はき理論p9-14）
3		現行刺鍼手技（図解鍼灸p59-73、はき理論p12-15）、刺鍼の基本手技（図解鍼灸p43-50、はき理論p9-12）
4		現行刺鍼手技（図解鍼灸p59-73、はき理論p12-15）、刺鍼の基本手技（図解鍼灸p43-50、はき理論p9-12）、刺鍼練習
5		現行刺鍼手技（図解鍼灸p59-73、はき理論p12-15）、刺鍼の基本手技（図解鍼灸p43-50、はき理論p9-12）、刺鍼練習
6		片手挿管、刺鍼手技の確認、刺鍼練習
7		感染対策の基本、消毒薬（安全マニュアルp101-112）、職業感染対策：B型肝炎を中心に（安全マニュアルp77-80）、刺鍼練習
8		現代の鍼・特殊鍼法（図解鍼灸p20-26、はき理論p15-20）、刺鍼の基本手技（図解鍼灸p43-50、はき理論p9-12）、刺鍼練習
9		リスク管理、副作用の防止策（はき理論p29-33、安全マニュアルp193-197）片手挿管、刺鍼練習
10		まとめ・小テスト、禁忌と注意（安全マニュアルp61-65）
11		職業感染対策：特に鍼刺し事故対策（安全マニュアルp73-75）、刺鍼練習
12		医療器具の洗浄・消毒・滅菌、施術野の消毒、衛生的刺鍼法、廃棄物の処理（安全マニュアルp140-158）
13		片手挿管、刺鍼練習（自分への施術）、手技Mp161～p182（下腿部）
14		片手挿管、刺鍼練習（自分への施術）、手技Mp161～p182（大腿部）
15		片手挿管、刺鍼練習（対人施術）、手技Mp161～p182（下腿部）
16		片手挿管、刺鍼練習（対人施術）、手技Mp161～p182（大腿部）
17		まとめ
18		期末試験
19		試験の振り返り
20		片手挿管、刺鍼練習（対人施術）、手技Mp161～p191（大腿部／下腿部）

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	基礎実技Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等21年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	岩澤 勉
7. 授業形式	講義、実技
8. 授業の目標	お灸についての基礎知識と技能の修得
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	KCや実技道具・タブレット・筆記用具等を忘れないでください。遅刻をしない。
11. 教科書	配布資料
12. 副読本	はりきゅう理論
13. 推薦参考図書	鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	お灸の基礎	実技における必要な準備の説明、お灸の歴史や精製について学ぶ。
2	お灸体験	灸の材料、お灸のひねり方について学ぶ。お灸体験（温筒灸、台座灸等）。
3	お灸の基礎	お灸のひねり方について学ぶ。お灸体験（温筒灸、台座灸等）。
4	お灸の基礎	お灸のひねり方について学ぶ。お灸体験（温筒灸、台座灸等）。
5	お灸の基礎	お灸のひねり方について学ぶ。お灸体験（温筒灸、台座灸等）。
6	お灸の基礎	お灸のひねり方について学ぶ。お灸体験（温筒灸、台座灸等）。
7	お灸の基礎	お灸のひねり方について学ぶ。お灸体験（温筒灸、台座灸等）。
8	お灸の基礎	お灸のひねり方について学ぶ。お灸体験（温筒灸、台座灸等）。
9	お灸の基礎	お灸のひねり方について学ぶ。お灸体験（温筒灸、台座灸等）。
10	お灸の基礎	お灸のひねり方について学ぶ。お灸体験（温筒灸、台座灸等）。
11	お灸の基礎	お灸のひねり方について学ぶ。お灸体験（温筒灸、台座灸等）。
12	お灸の基礎	お灸のひねり方について学ぶ。お灸体験（温筒灸、台座灸等）。
13	お灸の基礎	お灸のひねり方について学ぶ。お灸体験（温筒灸、台座灸等）。
14	お灸の基礎	お灸のひねり方について学ぶ。お灸体験（温筒灸、台座灸等）。
15	お灸の基礎	お灸のひねり方について学ぶ。自分の身体へ施灸。お灸体験（温筒灸、台座灸等）。
16	お灸の基礎	お灸のひねり方について学ぶ。自分の身体へ施灸。お灸体験（温筒灸、台座灸等）。
17	お灸の基礎	お灸のひねり方について学ぶ。自分の身体へ施灸。お灸体験（温筒灸、台座灸等）。
18	お灸の基礎	お灸のひねり方、テスト対策。自分の身体へ施灸。
19		期末試験
20	お灸の基礎	テストの復習。自分の身体へ施灸。

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	基礎実技Ⅲ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等22年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	手塚 清恵
7. 授業形式	実技
8. 授業の目標	鍼治療の基本的な知識を学び、体の様々な部位に安全に目的の深さや角度で刺鍼できる技術を身につける。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	関係ないものを着用し、身だしなみを整える。早朝や夜間明けをしつかり行う。不明なこと・不安なこと・体調不良などは遠慮せず教員に申し出てください。
11. 教科書	『はりきゅう理論』 社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社 『図解鍼灸臨床手技マニュアル第2版』 尾崎昭弘著 医歯薬出版（株）
12. 副読本	『新版 経絡経穴概論』 社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社 『図解鍼灸療法技術ガイドⅠ』 矢野忠編集主幹 文光堂
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		施術上の一般注意事項、有害事象と対処法、など
2		対人施鍼：下肢への刺鍼（三陰交、足三里）
3		対人施鍼：下肢への刺鍼（陽陵泉、公孫）
4		対人刺鍼：上肢への刺鍼（合谷、曲池）
5		対人刺鍼：上肢への刺鍼（尺沢、肩髃）
6		対人刺鍼：腰部への刺鍼（大腸兪、志室）
7		対人刺鍼：腰部への刺鍼（腎兪、脾兪）
8		対人刺鍼：仙骨部、下肢への刺鍼（次髎、委中）
9		後期中間試験
10		対人刺鍼：仙骨部、下肢への刺鍼（殷門、承山）
11		対人刺鍼：腹部への刺鍼（中脘、天枢）
12		対人刺鍼：腹部への刺鍼（関元、大巨）
13		対人刺鍼：胸部への刺鍼（華蓋、雲門）
14		対人刺鍼：上背部、肩部への刺鍼（肩井、肺兪）
15		対人刺鍼：上背部、肩部への刺鍼（天宗、秉風）
16		試験練習
17		後期期末試験
18		後期期末試験の振り返り
19		対人刺鍼：頸部、上背部への刺鍼（風池、完骨）
20		対人刺鍼：頭部への刺鍼（百会、神庭、頭維）

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	基礎実技Ⅳ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等21年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	岩澤 勉
7. 授業形式	実技
8. 授業の目標	対人施灸の基礎を学ぶ
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	タブレット、スマートフォン等は教員の支持または許可を得てから使用する。KC, お灸道具の忘れ物がないようにして下さい。
11. 教科書	経絡経穴、授業資料
12. 副読本	鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	対人施灸	対人施灸の手順、棒灸。
2	対人施灸	下肢への施灸。触診法・八分灸
3	対人施灸	下肢への施灸。触診法・八分灸
4	対人施灸	膝への施灸。触診法・八分灸
5	対人施灸	膝への施灸。触診法・八分灸
6	対人施灸	腰背部・腹部への知熱灸、隔物灸（生姜灸、大蒜灸）。
7	対人施灸	腰背部への施灸。触診法・八分灸・棒灸
8	対人施灸	腰背部への施灸。触診法・八分灸・棒灸
9	筆記試験	後期中間試験 筆記試験
10	対人施灸	頸・肩への施灸。触診法・八分灸
11	対人施灸	頸・肩への施灸。触診法・八分灸
12	対人施灸	頭部・顔面部への施灸。触診法・八分灸
13	対人施灸	頭部・顔面部への施灸。触診法・八分灸
14	対人施灸	肩関節への施灸。触診法・八分灸・棒灸
15	対人施灸	肩関節への施灸。触診法・八分灸・棒灸
16	対人施灸	対人施灸。八分灸
17	対人施灸	対人施灸。八分灸
18		後期期末試験
19	対人施灸	腰部・腹部への灸頭鍼。
20	対人施灸	腰部・腹部への灸頭鍼。

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	応用実技Ⅰ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等25年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	篠原 勝
7. 授業形式	実 技
8. 授業の目標	東洋医学臨床で習った事を実際にやってみる。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	単に鍼を刺すのでは無く何故その場所なのか、他に方法が無いのか等を考えながらやること。また前期は整形外科的な疾患が多いので解剖を復習すること。
11. 教科書	『新版 東洋医学臨床論（はりきゅう編）』公益社団法人 東洋療法学校協会編 南江堂 『新版 経絡経穴概論 第2版』公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社
12. 副読本	『解剖学 第2版』公益社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版 『鍼灸療法技術ガイド』文光堂
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		ツボを探るのに必要な目安となる部位を触る。肩峰、肩甲骨内上角、肩甲棘内縁、肩甲骨下角、第12浮肋骨先端、腸骨稜、上後腸骨棘
2		頭痛に対する治療（天柱・風池・完骨）
3		顔面痛に対する治療（魚腰、四白、オトガイ）
4		頸肩腕痛（頸椎症）に対する治療（C2～7棘突起、横突起）
5		頸肩腕痛（胸郭出口症候群）に対する治療（鎖骨下部、烏口突起）
6		上肢痛に対する治療（前腕部伸筋群）パルスを使用
7		肩関節痛に対する治療（肩髁・肩髃・結節間溝）
8		腰痛・腰下肢痛に対する治療（腎兪、志室、大腸兪）
9		確認テスト テスト解説
10		下肢痛（シンスプリント、腓骨頭周囲）に対する治療
11		膝痛に対する治療（内膝眼、血海、梁丘）
12		整形外科的疾患に対する治療復習
13		胸痛に対する治療（脊柱点、側胸点、胸骨点）
14		腹痛に対する治療（腹診と腹部散鍼）
15		眼精疲労に対する治療（瞳子髎（太陽）、攢竹、承泣）
16		めまいに対する治療（翳風、耳門、聴宮、聴会）
17		期末試験予行練習
18		期末試験
19		期末試験解説 治療についての考え方
20		臨床実習

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	応用実技Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等25年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	益子 勝良
7. 授業形式	実技
8. 授業の目標	身体診察、テスト法を理解し、実施できる。また、疾病の成り立ちについて理解し、適切な身体診察、テスト法、治療法を行える。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	指示以外のことは実施しない。
11. 教科書	『フィジカルアセスメントがみえる』メディックメディア 『鍼灸療法技術ガイド』文光堂
12. 副読本	プリント
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	医療面接	医療面接とは
2	医療面接	医療面接の実際
3	身体診察法	バイタルサイン
4	身体診察法	バイタルサイン、血圧測定
5	身体診察法	神経の伝導路、神経診察法（表在感覚、深部感覚）
6	身体診察法	神経系診察法（複合感覚、反射検査、自律神経反射）
7	身体診察法	神経系診察法（病的反射、脳神経系の診察法）
8	身体診察法	神経系診察法（病的反射、脳神経系の診察法）
9	身体診察法	神経系診察法（髄膜刺激症状検査、協調運動、ROM、MMT）
10	身体診察法	神経系診察法（髄膜刺激症状検査、協調運動、ROM、MMT）
11	徒手検査法	肩関節の徒手検査法
12	肩関節疾患	五十肩の病態把握・診断方法
13	肩関節疾患	五十肩の治療法
14	肩関節疾患	野球肩の病態把握・診断方法
15	肩関節疾患	野球肩の治療法
16	徒手検査法	肘部・手関節の徒手検査法
17	肘部・手関節疾患	内・外側上顆炎、変形性肘関節症、野球肘、手指の変形性関節症の病態把握・診断方法
18		試験練習
19		期末試験
20	肘部・手関節疾患	内・外側上顆炎の治療法

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	応用実技Ⅲ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等25年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	篠原 勝
7. 授業形式	実 技
8. 授業の目標	治療ポイントを覚えるのではなく、身体の変化に対して考えるようにする。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	治療に対する自分なりの考えを持つこと。
11. 教科書	
12. 副読本	東洋医学臨床論、経絡経穴概論
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		血圧異常に対する治療法（風池・膏肓・肩井）
2		睡眠障害に対する治療法（合谷・内関・足三里・三陰交）
3		食欲不振に対する治療法（T7～11、膈兪、肝兪、脾兪）
4		便秘に対する治療法（S2～S4）
5		歯痛に対する治療法（下関、大迎、頰車）
6		のどの痛みに対する治療法（喉頭隆起周囲）
7		脱毛に対する治療法（頭部の刺針）
8		中間テスト前振り返り
9		後期中間試験
10		耳鳴り・難聴に対する治療法（翳風、聴会のパルス）
11		疲労と倦怠に対する治療法（大椎、肺兪、心兪）
12		冷えに対する治療法（三陰交、行間パルス）
13		浮腫に対する治療法（豊隆、三陰交、太衝）
14		掻痒感（痒み）に対する治療法（透熱灸）
15		月経異常に対する治療法（L4～S2）
16		期末前振り返り
17		後期期末試験
18		期末テスト説明
19		骨盤位（逆子）に対する治療法（三陰交、至陰に灸）
20		治療という行為について考えること。

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	応用実技Ⅳ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等21年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	岩澤 勉
7. 授業形式	実技、講義
8. 授業の目標	人体の構造とスポーツ外傷を学習する。施術に必要な鍼灸の技術・診断などを習得する。またテーピングなどのスポーツに必要な知識を学習する。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	鍼灸用具や着替え（ハーフパンツ等）、タブレット等を忘れない事。
11. 教科書	配布資料
12. 副読本	東洋医学臨床論、解剖学、基礎から学ぶスポーツテーピング、経絡経穴。
13. 推薦参考図書	鍼灸技術ガイドⅠ・Ⅱ、アスリートケアマニュアル等

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	骨格筋	筋と身体の運動方向について学ぶ。
2	骨格筋	筋と身体の運動方向について学ぶ。低周波通電療法について学ぶ。
3	下腿	下腿・足関節のスポーツ障害について学ぶ
4	下腿	足関節のテーピング実習等 基礎・実技
5	下腿	下腿・足関節のテーピング実習等 実技
6	下腿	下腿・足関節の評価、ストレッチ、鍼灸施術（低周波通電療法）
7	膝関節	膝関節のスポーツ障害について学ぶ
8	膝関節	膝関節のテーピング実習等 基礎・実技
9	膝関節	下腿・足関節の評価、ストレッチ、鍼灸施術（低周波通電療法）
10	膝関節	下腿・足関節の評価、ストレッチ、鍼灸施術（低周波通電療法）
11	膝関節	下腿・足関節の評価、ストレッチ、鍼灸施術（低周波通電療法）
12	腰部・股関節	腰部・股関節のスポーツ障害について学ぶ
13	腰部・股関節	腰部・股関節のテーピング実習等 基礎・実技
14	腰部・股関節	腰部・股関節の評価、ストレッチ、鍼灸施術（低周波通電療法）
15	肩関節	肩関節のスポーツ外傷について学ぶ
16	肩関節	肩関節の評価、ストレッチ、鍼灸施術（低周波通電療法）
17	肩関節	肩関節の評価、ストレッチ、鍼灸施術（低周波通電療法）
18	肘関節	肘・手指などのスポーツ外傷、テーピング、評価、ストレッチ、鍼灸施術
19	試験	期末試験
20	復習	テストの復習

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	臨床実技Ⅰ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等9年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	石丸 幸宏
7. 授業形式	講義、実技
8. 授業の目標	東洋医学的な診察方法（四診）から所見をみつけ、そこから病態把握をし、東洋的な弁証（四診合参による弁証）を立てれるようになる。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	講義では、PCを準備をお願いします。
11. 教科書	新版東洋医学概論、新版東洋医学臨床論、新版経絡経穴概論、鍼灸臨床手技マニュアル
12. 副読本	鍼灸技術ガイドⅠ・Ⅱ
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	証の立てるまでの流れ	四診（【望、聞、問、切】診）を行い、所見から病態把握、証立てまでの流れを知る
2	弁証論治	弁証について（八綱弁証、気血津液弁証、臓腑弁証、経脈弁証、六淫弁証）
3	弁証論治	標本、主客、治則（扶正去邪、補虚瀉実、治病求本、標本同治、緩則治本、急則治標、正治、反治、天地人に応ずる）
4	弁証論治	治療方法（補瀉法、選穴の原則＜難経69難、75難、原絡配穴など＞）
5	弁証論治	治療方法（古代刺法）
6	四診	望診、舌診、脈診、腹診の方法
7		後期中間試験
8	問診	問診の方法
9		ペアでの四診の練習
10		ペアでの四診の練習 前回のペアを交代させて実施
11		ペアでの四診から弁証論治（選穴まで）
12		ペアでの四診から弁証論治（選穴まで）前回のペアを交代させて実施
13		ペアでの四診から弁証論治（選穴まで）
14		ペアでの四診から弁証論治（選穴まで）前回のペアを交代させて実施
15		ペアでの四診から弁証論治（治療まで）
16		ペアでの四診から弁証論治（治療まで）前回のペアを交代させて実施
17		後期期末試験
18		試験の振り返り
19		ペアでの四診から弁証論治（治療まで）
20		ペアでの四診から弁証論治（治療まで）前回のペアを交代させて実施

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床実技Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等8年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	行田 直人
7. 授業形式	実技室にて実習を行う
8. 授業の目標	五刺、九刺、常用穴刺鍼および施灸を再理解し、各種疾患に関する鍼灸施術を 実践理解できることを目標とする
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	鍼灸具および教科書を毎回持参すること
11. 教科書	『図解鍼灸臨床手技マニュアル（第2版）』医歯薬出版株式会社 および適時 配布資料
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	刺鍼手技について	単刺・置鍼・回旋・雀啄術等、現行の刺鍼手技を実践し再理解する
2	五刺について	五刺の実践を行いどのような疾患に活用されるのかを理解する
3	九刺について	九刺の実践を行いどのような疾患に活用されるのかを理解する
4	背部常用穴刺鍼	背部の刺鍼法・灸法を実践再理解し背部穴を用いる疾患を理解する
5	腰殿部常用穴刺鍼	腰殿部の刺鍼法・灸法を実践再理解し腰殿部穴を用いる疾患を理解する
6	肩部常用穴刺鍼	肩部の刺鍼法・灸法を実践再理解し肩部穴を用いる疾患を理解する
7	上腕部常用穴刺鍼	上腕部の刺鍼法・灸法を実践再理解し上腕部穴を用いる疾患を理解する
8	前腕・手部常用穴刺鍼	前腕・手部の刺鍼法・灸法を実践再理解し前腕・手部穴を用いる疾患を理解する
9	大腿部常用穴刺鍼	大腿部の刺鍼法・灸法を実践再理解し大腿部穴を用いる疾患を理解する
10	膝部常用穴刺鍼	膝部の刺鍼法・灸法を実践再理解し膝部穴を用いる疾患を理解する
11	下腿部常用穴刺鍼	下腿部の刺鍼法・灸法を実践再理解し下腿部穴を用いる疾患を理解する
12	足部常用穴刺鍼	足部の刺鍼法・灸法を実践再理解し足部穴を用いる疾患を理解する
13	胸腹部常用穴刺鍼	胸腹部の刺鍼法・灸法を実践再理解し胸腹部穴を用いる疾患を理解する
14	頭頸・顔面部常用穴刺鍼	頭頸・顔面部の刺鍼法・灸法を実践再理解し頭頸・顔面部穴を用いる疾患を理解する
15	総合復習 1	肩部・腰部の整形外科疾患に対する刺鍼・灸法を実践しその手法を理解する
16	総合復習 2	膝・足部の整形外科疾患に対する刺鍼・灸法を実践しその手法を理解する
17	総合復習 3	内科的疾患（肺・胃腸系）に対する刺鍼・灸法を実践しその手法を理解する
18	総合復習 4	六部定位脈診を用いた各種疾患の考え方の例を理解する
19		期末試験
20	総合理解	これまでの実技内容について理解を深める

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床実技Ⅲ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等18年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	千木良 美歩
7. 授業形式	実技
8. 授業の目標	良導絡の理論を知り、理論に基づき測定、診断、治療方針を立て治療することを目標とする。美容鍼灸の基本手技を学び実施できるようになることを目的とする。
9. 成績評価	単元ごとの試験と期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	5分の4以上の出席で受験資格を得る
11. 教科書	『良導絡 自律神経調整療法 基礎編』日本良導絡自律神経学会 学術部篇 『よくわかる美容鍼灸』上田隆勇著 三和書籍
12. 副読本	『経絡経穴概論』社団法人 東洋療法学校協会篇 医道の日本社
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単元	概要
1	良導絡自律神経調整療法	良導絡について、測定方法、良導点・反応良導点、カルテへのプロット
2		良導絡について、経絡との相違点
3		異常良導絡、生理的範囲
4		平均電流量について、EAP鍼について、鍼の使い方
5		興抑調整について、良導絡症候群について、不問診
6		基本調整法について、EAP鍼について、通電について
7		直流電気鍼とは、反応良導点治療について、刺激について
8		測定～治療～測定まで
9	試験 6/10	良導絡自律神経調整療法の筆記試験 測定～治療～測定まで
10	試験 6/17	良導絡自律神経調整療法の実技試験
11	美容鍼灸	美容鍼灸の概論
12		禁忌、パルス、しわの基礎、しわに対するアプローチ、各論 ほうれい線
13		全身治療、各論 笑いじわ、口角下端のたるみ、ほうれい線の上端のしわ
14		顔は心と体を映し出す鏡、各論 下眼瞼のたるみ・しわ、カラスの足跡
15		よく見るスキントラブル、各論 前額のしわ、たるみ、フェイスラインのたるみ
16		顔の悩みに対する特効穴、各論 眼瞼下垂、眉間・鼻根のしわ
17		復習
18		復習
19	試験8/20	美容鍼灸の筆記・実技試験
20		復習

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	臨床実技Ⅳ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等21年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年 後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	岩澤 勉
7. 授業形式	実技
8. 授業の目標	疾患に対して治療。刺鍼・施灸の技術の向上。
9. 成績評価	単元ごとの筆記テスト、実技テスト
10. 受講上の注意	実技道具、KC、タブレットを忘れないでください。
11. 教科書	東洋医学臨床論、鍼灸技術ガイドⅠ・Ⅱ、授業資料
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単元	概要
1	刺鍼・施灸について	授業方針、西洋医学・東洋医学での試験方法などの説明。刺鍼と施灸実技
2	東洋医学的施術	東洋医学的な運動器系のとらえ方と施術（痺証について理解と施術）
3	頸・背部	肩こりや頸椎症についての刺針。西洋的治療
4	頸・背部	肩こりや頸椎症についての刺針。東洋的治療
5	試験	東洋医学的な病態のとらえ方と施術方法。（病証の立て方と使用経穴、施術など）
6	試験	頸・背部への刺鍼・施灸のテスト（鍼の方向、深さ、刺鍼・施灸の手順、経穴など）
7	腰背部の施術	腰背部の疾患に対する施術 西洋的治療
8	腰背部の施術	腰背部の疾患に対する施術 東洋的治療
9	試験	東洋医学的な病態のとらえ方と施術方法。（証の立て方と使用経穴、施術など）
10	試験	腰背部への刺鍼・施灸のテスト（鍼の方向、深さ、刺鍼・施灸の手順、経穴など）
11	膝周辺の施術	膝周辺の疾患に対する施術。西洋的治療
12	膝周辺の施術	膝周辺の疾患に対する施術。東洋的治療
13	試験	東洋医学的な病態のとらえ方と施術方法。（証の立て方と使用経穴、施術など）
14	試験	膝への刺鍼・施灸のテスト（鍼の方向、深さ、刺鍼・施灸の手順、経穴など）
15	肩関節周辺の施術（局所）	肩関節周辺の疾患に対する施術
16	肩関節周辺の施術（東洋医学）	肩関節周辺の疾患に対する施術
17	試験	東洋医学的な病態のとらえ方と施術方法。（証の立て方と使用経穴、施術など）
18	試験	肩周辺への刺鍼・施灸のテスト（鍼の方向、深さ、刺鍼・施灸の手順、経穴など）
19	その他の疾患（局所）	局所治療（4大疾患の復習も兼ねる）
20	その他の疾患（東洋医学）	東洋的治療（4大疾患の復習も兼ねる）

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	総合実技 I ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等14年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	塩野 拓人
7. 授業形式	実技、講義
8. 授業の目標	経脈の流注、経穴の名称および部位を覚え、体表面から実際の経穴を取穴できるようにする。経穴部位に関連する体表指標について、解剖学的名称および部位を覚える。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	実技室を使用する際はKCを着用し、適宜、タオル、ショートパンツ等を用意すること。授業中のタブレット使用は可、スマートフォン使用は禁止です。
11. 教科書	『新版 経絡経穴概論 第2版』 社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社 『ツボ暗記カード』 森ノ宮医療学園出版部編 アルテミシア
12. 副読本	『解剖学 第2版』 社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社 『針灸学（経穴篇）』 日中共同編集 東洋学術出版社
13. 推薦参考図書	『経穴マップ』 王曉明(著) 医歯薬出版 『ツボ単』 形井秀一, 高橋研一(監) NTS

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要	
1	第1章 経脈経穴の基礎	経穴の概要、取穴実技の概要	
2	第1章 経脈経穴の基礎	骨度法、体表指標	
3	第2章 経脈・経穴	骨度法、体表指標	
4	第2章 経脈・経穴	要穴（四総穴・六臓の原穴）の経穴名、部位、取穴	
5		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（手太陰肺経）	
6		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（手少陰心経）	
7		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（手厥陰心包経） ・確認テスト	
8		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（手陽明大腸経）	
9		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（手陽明大腸経）	
10		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（手太陽小腸経）	
11		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（手太陽小腸経）	
12		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（手少陽三焦経）	
13		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（手少陽三焦経）	
14		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（督脈）	
15		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（督脈）	
16			期末試験（取穴実技）
17			期末試験
18	第2章 経脈・経穴	経脈の流注、経穴名、部位、取穴（任脈）	
19		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（任脈）	
20		まとめ	

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	総合実技Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等14年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	塩野 拓人
7. 授業形式	実技、講義
8. 授業の目標	経脈の流注、経穴の名称および部位を覚え、対人で体表面から経穴を取穴できるようにする。経穴部位に関連する体表指標について、解剖学的名称および部位を覚える。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	実技室を使用する際はKCを着用し、適宜、ショートパンツ等を用意すること。東洋医学特有の用語や漢字に慣れ親しむことができるよう、日頃からの学習を期待します。
11. 教科書	『新版 経絡経穴概論 第2版』 公益社団法人 東洋療法学校協会 日本理療科教員連盟 編 医道の日本社
12. 副読本	『解剖学 第2版』 公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社 『針灸学（経穴篇）』 日中共同編集 東洋学術出版社
13. 推薦参考図書	『経穴マップ』 王曉明(著) 医歯薬出版 『ツボ単』 形井秀一, 高橋研一(監) NTS

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第2章 経脈・経穴	経脈の流注、経穴名、部位、取穴（督脈）
2		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（任脈）
3		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（足陽明胃経）
4		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（足陽明胃経）
5		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（足太陰脾経）
6		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（足太陰脾経）
7		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（足太陽膀胱経）
8		後期中間試験
9	第2章 経脈・経穴	経脈の流注、経穴名、部位、取穴（足太陽膀胱経）
10		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（足太陽膀胱経）
11		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（足少陰腎経）
12		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（足少陰腎経）
13		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（足少陽胆経）
14		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（足少陽胆経）
15		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（足少陽胆経）
16	経脈の流注、経穴名、部位、取穴（足厥陰肝経）	
17		後期期末試験（取穴実技）
18		後期期末試験（筆記）
19	第2章 経脈・経穴	奇穴の名称、取り方、主治、取穴
20		奇穴の名称、取り方、主治、取穴

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	総合実技Ⅲ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等9年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	益子 勝良
7. 授業形式	実技
8. 授業の目標	身体診察、テスト法を理解し、実施できる。また、疾病の成り立ちについて理解し、適切な身体診察、テスト法、治療法を行える。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	指示以外のことは実施しない。
11. 教科書	『鍼灸療法技術ガイド』文光堂
12. 副読本	プリント
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	徒手検査法	腰部・股関節の徒手検査法
2	腰部・股関節疾患	椎間板ヘルニア、後縦靭帯骨化症の病態把握・診断方法
3	腰部・股関節疾患	椎間板ヘルニアの治療法
4	腰部・股関節疾患	腰痛症、脊椎分離症・すべり症、変形性脊椎症、脊柱管狭窄症の病態把握・診断方法
5	腰部・股関節疾患	腰痛症の治療法
6	腰部・股関節疾患	変形性股関節症の病態把握・診断方法
7	腰部・股関節疾患	変形性股関節症の治療方法
8		後期中間試験
9	徒手検査法	膝・足関節の徒手検査法
10	膝・足関節疾患	変形性膝関節症の病態把握・診断方法
11	膝・足関節疾患	変形性膝関節症の治療方法
12	膝・足関節疾患	シンスプリント、変形性足関節症の病態把握・診断方法
13	膝・足関節疾患	シンスプリントの治療法
14		試験練習
15		実技試験
16	徒手検査法	頭頸部の徒手検査法
17	頭頸部の疾患	胸郭出口症候群、頸椎捻挫・むちうちの病態把握・診断方法
18		後期期末試験
19	頭頸部の疾患	胸郭出口症候群の治療法
20	頭頸部の疾患	肩甲挙筋の刺鍼法

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	臨床実習 I
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	石丸幸宏他
7. 授業形式	講義、実技
8. 授業の目標	医療面接を主軸に、鍼灸師として必要な患者対応の方法を学び、実践できるようにする。
9. 成績評価	授業態度、レポートなどの提出物の内容・提出状況から評価を行います。
10. 受講上の注意	原則、欠席ができない科目となります。欠席する場合は、事前連絡が必須となります。
11. 教科書	
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		医療面接について
2		医療面接について
3		医療面接について
4		医療面接演習
5		医療面接演習 カルテの見方・書き方
6		医療面接→カルテ記入演習
7		医療面接→カルテ記入演習
8		医療倫理について
9		論文について説明 ・ 論文を読む
10		論文要旨を読む→どんな論文書まとめ説明
11		治療院の片付け・電話対応について
12		電話対応練習
13		治療院片づけの練習
14		治療院実習の説明
15		治療院実習①
16		治療院実習①
17		治療院実習②
18		治療院実習②
19		治療院実習③
20		治療院実習③
21		治療院実習④
22		治療院実習④
23		治療院実習⑤
24		治療院実習⑤

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床実習Ⅱ
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	菊地 裕一 手塚 清恵 他
7. 授業形式	授業前に教室での講義か、実技室での実技練習か連絡します。
8. 授業の目標	臨床において必要な技術、知識を身につける。
9. 成績評価	出席状況を中心に、課題の提出状況、実習中の評価を総合的に評価する。
10. 受講上の注意	授業と実習はすべて出席が必須になります。やむを得ず休む場合は、必ず事前に連絡し、欠席届を後日、提出すること。
11. 教科書	鍼灸技術ガイドⅠ・Ⅱ
12. 副読本	『図解鍼灸臨床手技マニュアル』医歯薬出版
13. 推薦参考図書	『新版 東洋医学臨床論（はりきゅう編）』南江堂

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		外部実習ガイダンス（担架・ユースチーム・郡山シティマラソン）・10分間施灸
2		介護実習ガイダンス（高齢者体験・車いす体験・ステーション実習）・10分間施灸
3		介護保険について・10分間施灸
4		郡山シティマラソン実習
5		画像診断
6		画像診断
7		画像診断
8		画像診断
9		画像診断
10		画像診断
11		筆記試験対策・10分間施灸
12		外部実習 Jリーグ担架救護実習
13		外部実習 福島ユナイテッドFCユースチーム救護
14		介護事前実習
15		介護事前実習
16		外部実習 介護ステーション実習
17		外部実習 介護ステーション実習
18		外部実習 選択（Jリーグ担架救護・福島ユナイテッドFCユースチーム救護・介護）
19		外部実習 選択（Jリーグ担架救護・福島ユナイテッドFCユースチーム救護・介護）
20		外部実習 選択（Jリーグ担架救護・福島ユナイテッドFCユースチーム救護・介護）

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	臨床実習Ⅱ
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 通年
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	菊地 裕一 手塚 清恵 他
7. 授業形式	介護ステーションでの実習を行う。
8. 授業の目標	介護の現場でのコミュニケーション、介助の仕方、高齢者に対する体操を実際に経験して学ぶ。
9. 成績評価	出席状況を中心に、課題の提出状況、実習中の評価を総合的に評価する。
10. 受講上の注意	常に周囲には気を配り対応すること。実習は全て出席です。やむを得ず休む場合は必ず事前に連絡し、後日欠席届を提出すること。
11. 教科書	
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		介護ステーション実習（選択実習）
2		介護ステーション実習（選択実習）
3		介護ステーション実習（選択実習）
4		介護ステーション実習（選択実習）
5		介護ステーション実習（選択実習）
6		介護ステーション実習（選択実習）

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	臨床実習Ⅲ
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 通年
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	菊地 裕一 手塚 清恵 他
7. 授業形式	授業前に教室での講義か、実技室での実技練習か連絡します。
8. 授業の目標	臨床において必要な技術、知識を身につける。
9. 成績評価	出席状況を中心に、課題の提出状況、実習中の評価を総合的に評価する。
10. 受講上の注意	授業と実習はすべて出席です。やむを得ず休む場合は、必ず事前に連絡し、欠席届を後日提出すること。
11. 教科書	鍼灸技術ガイドⅠ・Ⅱ
12. 副読本	『図解鍼灸臨床手技マニュアル』医歯薬出版
13. 推薦参考図書	『新版 東洋医学臨床論（はりきゅう編）』南江堂

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		治療院実習ガイダンス
2		開業について
3		開業について
4		実技試験の内容の模擬試験
5		実技試験の内容の模擬試験
6		実技試験練習
7		実技試験練習
8		実技試験の流れ確認
9	臨床実習試験	筆記試験（東洋医学・西洋医学）症例問題
10		実技試験練習
11	臨床実習試験	実技試験（血圧試験、取穴試験、対人刺鍼試験）
12	臨床実習試験	実技試験（対人施灸試験、10分間施灸試験）
13		開業サポートと療養費について/医療連携について
14		医療連携について
15		3年次の臨床実習について
16	治療院見学実習	
17	治療院見学実習	
18	治療院見学実習	
19	治療院見学実習	
20	治療院見学実習	
21	治療院見学実習	
22	治療院見学実習	
23	治療院見学実習	
24	治療院見学実習	
25	治療院見学実習	

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床実習Ⅲ
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	菊地 裕一 手塚 清恵 他
7. 授業形式	授業前に教室での講義か、実技室での実技練習か連絡します。
8. 授業の目標	臨床において必要な技術、知識を身につける。
9. 成績評価	出席状況を中心に、課題の提出状況、実習中の評価を総合的に評価する。
10. 受講上の注意	授業と実習はすべて出席が必須になります。やむを得ず休む場合は、必ず事前に連絡し、欠席届を後日、提出すること。
11. 教科書	鍼灸技術ガイドⅠ・Ⅱ
12. 副読本	『図解鍼灸臨床手技マニュアル』医歯薬出版
13. 推薦参考図書	『新版 東洋医学臨床論（はりきゅう編）』南江堂

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		治療院見学実習ガイダンス
2		実技試験説明 対人刺鍼・施灸練習、10分間施灸練習 基本的な扱い方の練習
3		対人刺鍼・施灸練習、11分間施灸練習 基本的な扱い方の練習
4		治療院見学実習
5		治療院見学実習
6		治療院見学実習
7		治療院見学実習
8		治療院見学実習
9		症例発表会（3時間）
10		OSCE合同練習会
11		開業について
12		開業について
13		実技試験 練習
14		実技試験に向けた模擬試験
15		実技試験に向けた模擬試験
16		臨床実習実技試験 筆記試験（東洋・西洋・経穴）
17		実技試験 練習 試験の流れ確認
18		実技試験
19		福鍼協さんの話（開業サポートと療養費）/医療連携について
20		医療連携について
21		実技試験 振り返り
22		実技試験 振り返り/治療体験の準備
23		来年度の臨床実習の話

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床実習Ⅳ
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	塩野 拓人
7. 授業形式	実習および症例検討
8. 授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・本実習は3年間の総まとめとして、直接、外来患者に接することを通じて、授業で学習した知識、技能、態度を臨床現場で統合することを目指す。 ・鍼灸臨床の知識・技術を生かして障害部位、反応点等を把握し、病態に対する鍼灸適用の適・不適の判断や経過・予後の状況等について附属治療院で実習経験することを目的とする。
9. 成績評価	実習および症例検討によるレポートの提出等により総合的に評価する。
10. 受講上の注意	清潔なKCあるいは白衣を着用すること。安全性、衛生面の観点から爪は短く切る、髪の毛をまとめてたばねる、前髪が目にかからないようにする等、清潔感のある身だしなみで実習に望むこと。また、指輪、ネックレス、マニキュアの禁止等、学生規則に則った身だしなみであること。携帯電話・スマートフォンの使用禁止。原則として遅刻は認めない。諸事情により欠席する場合は必ず連絡を入れること。
11. 教科書	各自必要な教科書を準備すること。
12. 副読本	『図解 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ』 矢野忠（編） 文光堂
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		ガイダンス、症例検討①
2		ガイダンス、症例検討②
3		治療体験の事前施術練習①
4		治療体験の事前施術練習②
5		治療体験の事前施術練習③
6		治療体験の事前施術練習④
7		カンファレンス
8		症例発表（クラス内）①
9		症例発表（クラス内）②
10		症例発表（全学年）①
11		症例発表（全学年）②
12		OSCE復習
13		治療院見学・補助
14		治療院見学・補助
15		治療院見学・補助
16		治療院見学・補助
17		治療院見学・補助
18		治療院見学・補助
19		治療院見学・補助
20		治療院見学・補助

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	総合領域Ⅰ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等18年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	千木良美歩
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	あはき師の歴史を知り、現代の課題を理解する。東洋医学の基礎である東洋的思想を知る。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	3分の2以上の出席で受験資格を得る。配布資料は授業時に持参をしてください。
11. 教科書	『新版 東洋医学概論』 社団法人 東洋療法学校協会 医道の日本社
12. 副読本	『針灸の歴史 悠久の東洋医術』 あじあブックス大修館書店 『医療概論』 社団法人 東洋療法学校協会 医歯薬出版株式会社
13. 推薦参考図書	『日本医療史』 新村拓 吉川弘文館

14. 講義スケジュール

回数	単元	概要
1	あはき史について	医学史の意義 はり・きゅうの起源
2	古代の医学と医療	東洋の医学と医療
3	中世の医学と医療	東洋の医学と医療
4	中世の医学と医療	東洋の医学と医療
5	近世の医学と医療	東洋の医学と医療
6	現代の医学と医療	現代医学の課題 西欧近代医学
7	現代の医学と医療	現代医学の課題 東洋医学 現代のはり師きゅう師の現状
8	第3章 東洋医学の思想	第1節陰陽学説
9		第1節陰陽学説
10		第2節五行学説
11		第2節五行学説
12		第2節五行学説
13		第2節五行学説
14		第2節五行学説
①	統合教育科目Ⅰ	総復習
②	統合教育科目Ⅰ	総復習
15		期末試験
③	統合教育科目Ⅰ	試験結果と振り返り授業

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	総合領域Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等8年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	小野 かおり
7. 授業形式	演習
8. 授業の目標	経穴の取穴に必要な人体の骨の位置や名称を把握する。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	色鉛筆を持参してください。配布したプリント等の再配布はしません。
11. 教科書	『解剖学』公益社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社 『ネッター解剖学アトラス』南江堂
12. 副読本	『解剖学ワークブック』医歯薬出版株式会社
13. 推薦参考図書	『ネッター解剖学カラーリングテキスト』南江堂

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	体幹	体幹・体肢の部位名と骨
2	上肢	上肢帯の骨
3		上腕の骨
4		前腕の骨
5		手の骨
6		上肢の関節
7		上肢のまとめ
8		1～7回のまとめ
9	下肢	下肢帯の骨
10		大腿の骨
11		下腿の骨
12		足の骨
13		下肢の関節
14		9～13回のまとめ
①	統合教育科目Ⅰ	総復習
②	統合教育科目Ⅰ	総復習
15		期末試験
③	統合教育科目Ⅰ	試験結果と振り返り授業

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	総合領域Ⅲ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等14年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	塩野 拓人
7. 授業形式	講義、ICT機器
8. 授業の目標	生体の機能としくみの基礎を知り、生体が内外からの刺激にどのように応答するかを理解する。1年次に履修した生理学を総復習する。
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	受験資格を得るためには3分の2以上の出席が必要となる。 医学用語に慣れ親しむことができるよう、日頃からの学習を期待します。
11. 教科書	『解剖生理学』 公益社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社 『生理学ワークブック』 目崎登(監) 他著 医歯薬出版株式会社
12. 副読本	『生理学 第3版』 公益社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		問題演習および解説・まとめ
2		問題演習および解説・まとめ
3		問題演習および解説・まとめ
4		問題演習および解説・まとめ
5		問題演習および解説・まとめ
6		問題演習および解説・まとめ
7		問題演習および解説・まとめ
8		後期中間試験
①	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業
9		問題演習および解説・まとめ
10		問題演習および解説・まとめ
11		問題演習および解説・まとめ
12		問題演習および解説・まとめ
13		問題演習および解説・まとめ
14		問題演習および解説・まとめ
②	統合教育科目Ⅱ	総復習
15		後期期末試験
③	統合教育科目Ⅱ	振り返り授業
④	統合教育科目Ⅱ	振り返り授業

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	統合教育科目 I
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 通年
5. 単位数	4単位
6. 担当講師	石丸 幸宏 他
7. 授業形式	座学他
8. 授業の目標	各科目の復習と理解を深める
9. 成績評価	期末試験に校内模試の結果と平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	欠席する場合は原則、電話で学校に事前連絡をすること。
11. 教科書	
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		新入生研修会
2		新入生研修会
3		確認テスト
4		確認テスト
5		校内模試
6		総復習
7		総復習（問題演習）
8		モラル教育・倫理研修
9		総復習
10		総復習
11		総復習
12		総復習
13		総復習
14		総復習
15		総復習
16		総復習
17		総復習
18		総復習
19		総復習
20		総復習
21		総復習
22		総復習
23		総復習
24		総復習
25		総復習
26		総復習
27		定期試験
28		振り返り授業
29		振り返り授業
30		振り返り授業
31		振り返り授業
32		振り返り授業
33		振り返り授業
34		振り返り授業
35		振り返り授業
36		振り返り授業
37		振り返り授業
38		振り返り授業
39		振り返り授業

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	統合教育科目 I
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 通年
5. 単位数	4単位
6. 担当講師	石丸 幸宏 他
7. 授業形式	座学他
8. 授業の目標	各科目の復習と理解を深める
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	各科目の中間試験前後や期末試験前後の日程は統合教育科目となり、試験前後の復習などの時間や研修会が対象となります。原則欠席せぬように日程調整と体調管理をしっかりとってください。 期末試験は前期と後期あり、1年次に履修する科目から4択問題を出題し、その正答率が点数となります。
11. 教科書	
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	「国家試験過去問題集 はり師さゆう師用」医道の日本社

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		総復習
2		総復習
3		総復習
4		授業と振り返り授業
5		授業と振り返り授業
6		校内模試
7		授業と振り返り授業
8		授業と振り返り授業
9		授業と振り返り授業
10		授業と振り返り授業
11		授業と振り返り授業
12		総復習
13		総復習
14		総復習
15		総復習
16		総復習
17		総復習
18		総復習
19		定期試験
20		授業と振り返り授業
21		授業と振り返り授業
22		授業と振り返り授業
23		授業と振り返り授業
24		授業と振り返り授業
25		授業と振り返り授業
26		授業と振り返り授業
27		授業と振り返り授業
28		総復習
29		総復習
30		総復習
31		総復習
32		総復習
33		総復習
34		総復習
35		総復習

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅱ
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 通年
5. 単位数	4単位
6. 担当講師	小野 かおり ほか
7. 授業形式	座学、演習
8. 授業の目標	各科目の復習と理解を深める
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	やむを得ない事情で欠席する場合には事前に連絡すること。
11. 教科書	
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		校内模試
2		校内模試
3		オリエンテーション
4		キャリア教育
5		キャリア教育
6		総復習
7		鍼・灸実技 技術チェック
8		総復習
9		総復習
10		総復習
11		総復習
12		鍼・灸実技 技術チェック
13		授業と振り返り授業
14		授業と振り返り授業
15		校内模試
16		解説作成
17		授業と振り返り授業
18		授業と振り返り授業
19		授業と振り返り授業
20		授業と振り返り授業
21		授業と振り返り授業
22		キャリア教育
23		総復習
24		総復習
25		総復習
26		総復習
27		総復習
28		総復習
29		総復習
30		総復習
31		総復習
32		総復習
33		総復習
34		総復習
35		総復習
36		総復習
37		期末試験
38		振り返り授業
39		振り返り授業
40		振り返り授業
41		振り返り授業
42		振り返り授業
43		振り返り授業
44		振り返り授業
45		振り返り授業

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅱ
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 通年
5. 単位数	4単位
6. 担当講師	菊地 裕一 ほか
7. 授業形式	座学、演習
8. 授業の目標	各科目の復習と理解を深める
9. 成績評価	期末試験に平常点（各種テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	
11. 教科書	
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		校内模試
2		校内模試
3		解説作成
4		授業と振り返り授業
5		授業と振り返り授業
6		校内模試
7		授業と振り返り授業
8		授業と振り返り授業
9		授業と振り返り授業
10		授業と振り返り授業
11		授業と振り返り授業
12		授業と振り返り授業
		実技試験振り返り
13		総復習
14		実技試験振り返り/治療体験の準備
15		治療体験の準備
16		総復習
17		総復習
18		総復習
19		総復習
20		総復習
21		期末試験
22		振り返り授業
23		治療体験の準備
24		振り返り授業
25		振り返り授業
26		振り返り授業
27		振り返り授業
28		振り返り授業
29		振り返り授業
31		振り返り授業
32		振り返り授業
33		振り返り授業
34		振り返り授業
35		

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅲ－1A
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	濱津 慶子
7. 授業形式	4択演習と解答解説（模試を含む）
8. 授業の目標	他科目との関連を確認しながら国家試験合格の実力をつける。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	教科書を必ず持参すること。
11. 教科書	解剖生理（公益社団法人）東洋療法学校協会 編
12. 副読本	特になし
13. 推薦参考図書	生理学 受験と学習マニュアル

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	(配布プリント) 身体活動の協調	血圧の調節（神経）
2		血圧の調節（ホルモン・腎）
3		体液の電解質調節（代謝）
4		体液の電解質調節（呼吸）
5		血糖の調節（ホルモン）
6	第10章	内分泌～性周期
7	第11章	妊娠と発生
8		期末試験

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅲ－1B
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	飯島 直子
7. 授業形式	作製したプリントを中心に授業を進める。教科書も一部参考にする。iPadを必ず持参すること。
8. 授業の目標	国家試験に全員合格できることを目指し授業をする。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	私語や居眠りは厳禁。授業内容は丸暗記でなくなるべく仕組みを理解するように。
11. 教科書	『病理学概論』 社団法人 東洋療法学校協会 医歯薬出版
12. 副読本	無し
13. 推薦参考図書	『病理学』 堤寛著 医学芸術社

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第6章	進行性病変
2	第6章	進行性病変
3	第6章	進行性病変
4	第4章	循環障害
5	第4章	循環障害
6	第4章	循環障害
7	第5章	退行性病変
8		期末試験

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅲ－2 ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等9年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年 後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	益子 勝良
7. 授業形式	プリント、問題演習
8. 授業の目標	国家試験に必要な臨床医学総論、臨床医学各論の知識を身につける。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	常に必要な教科書を準備し、問題に対し真摯に取り組む。また、期日までにしっかりと課題を行っていく。
11. 教科書	『臨床医学総論』・『臨床医学各論』 社団法人東洋療法学校協会編 医歯薬出版
12. 副読本	プリント
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	整形外科疾患	整形外科疾患に関する問題演習
2	整形外科疾患	整形外科疾患に関する解説
3	循環器疾患	循環器疾患に関する問題演習
4	循環器疾患	循環器疾患に関する解説
5	血液疾患	血液疾患に関する問題演習
6	血液疾患	血液疾患に関する解説
7		後期期末試験
8	神経疾患	神経に関する問題演習
9	神経疾患	神経に関する解説
10	リウマチ・膠原病疾患	リウマチ・膠原病疾患に関する問題演習
11	リウマチ・膠原病疾患	リウマチ・膠原病疾患に関する解説
12	その他の領域	その他の領域に関する問題演習
13	その他の領域	その他の領域に関する解説
14	身体診察・臨床検査	身体診察・臨床検査に関する問題演習・解説
15	身体診察・臨床検査	身体診察・臨床検査に関する問題演習・解説

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅲ－3 ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等25年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年 後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	篠原 勝
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	リハビリテーションの理解を更に深める。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	練習問題の後に間違えたものに対してレポートを必ず書くこと。
11. 教科書	医歯薬出版 リハビリテーション医学 第4版
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単元	概要
1		第1章A. リハビリテーションと障害～C. 障害の評価1. 心身機能・身体構造の評価)
2		第1章C. 障害の評価2. 活動の評価～9. 摂食障害の評価
3		第1章D. 医学的リハビリテーション1. 理学療法
4		第1章D. 医学的リハビリテーション2. 作業療法～8. リハビリテーション工学
5		第2章A. 脳卒中のリハビリテーション～B 脊髄損傷のリハビリテーション
6		第2章C. 切断のリハビリテーション～第3章 運動の仕組み
7		後期期末試験
8		リハビリテーション医学練習問題1
9		リハビリテーション医学練習問題2
10		リハビリテーション医学練習問題3
11		リハビリテーション医学練習問題4
12		リハビリテーション医学練習問題5
13		リハビリテーション医学練習問題6
14		リハビリテーション医学練習問題7
15		リハビリテーション医学練習問題8

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅲ－4 ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等9年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年 後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	石丸 幸宏
7. 授業形式	東洋医学臨床論の整形外科系の問題を解くために、徒手検査、治療穴、陽性所見などの必要な知識を過去問を解きながら身に付けていく。
8. 授業の目標	わかっていない部分。曖昧になっている部分をキチンと整理し、出来なかった問題ができるように丁寧に復習をして行く。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	わからなければ質問をする事。間違えた問題を丁寧に内容を整理して、二度と間違えないようにしていく。
11. 教科書	『新版東洋医学概論』『新版経絡経穴概論』『新版東洋医学臨床論』『鍼灸技術ガイドⅠ・Ⅱ』
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		過去問演習
2		過去問演習
3		過去問演習
4		過去問演習
5		過去問演習
6		過去問演習
7		後期期末試験
8		過去問演習
9		過去問演習
10		過去問演習
11		過去問演習
12		過去問演習
13		過去問演習
14		過去問演習
15		過去問演習

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅲ－5 ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等18年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年 後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	千木良美歩
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	経穴に関する知識を復習し、国家試験問題に対応できる応用力を身につける。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	問題解説は単純作業として行うのではなく、知識の定着のために行うこと。
11. 教科書	『新版 経絡経穴概論 第2版』 東洋療法学校協会編 医道の日本社
12. 副読本	『新版 東洋医学臨床論（はりきゅう編）』 『鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ』
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		問題演習と解説講義（東洋的な臨床問題と経穴）
2		問題演習と解説講義（東洋的な臨床問題と経穴）
3		問題演習と解説講義（西洋的な臨床問題と経穴）
4		問題演習と解説講義（西洋的な臨床問題と経穴）
5		問題演習と解説講義（総合問題）
6		問題演習と解説講義（総合問題）
7		後期期末試験
8		問題演習と解説講義（東洋的な臨床問題と経穴）
9		問題演習と解説講義（東洋的な臨床問題と経穴）
10		問題演習と解説講義（東洋的な臨床問題と経穴）
11		問題演習と解説講義（西洋的な臨床問題と経穴）
12		問題演習と解説講義（西洋的な臨床問題と経穴）
13		問題演習と解説講義（西洋的な臨床問題と経穴）
14		問題演習と解説講義（総合問題）
15		問題演習と解説講義（総合問題）

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	統合教育科目IV-5
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・通年
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	菊地 裕一、他
7. 授業形式	鍼灸国家試験に向けて国家試験と同様の形式の模擬試験を行う。
8. 授業の目標	国家試験合格のために、問題数や解答方法、出題傾向に慣れ、対応できるようになる。
9. 成績評価	定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	事前に模擬試験の日程を確認し、事前に欠席しなければならない場合は必ず欠席届を提出すること。 模擬試験当日に欠席せざるを得なくなった場合は、試験開始時間前に学校に電話連絡をすること。
11. 教科書	国家試験に出題される科目すべての教科書や参考書
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		オリエンテーション
2		校内模試
3		校内模試
4		合同模試
5		合同模試
6		校内模試
7		校内模試
8		論文大会
9		合同模試
10		合同模試
11		校内模試
12		校内模試
13		校内模試
14		校内模試
15		合同模試
16		合同模試
17		後期期末試験
18		後期期末試験
19		校内模試
20		校内模試
21		合同模試
22		合同模試
23		校内模試
24		校内模試
25		国家試験対策
26		国家試験対策
27		国家試験対策
28		国家試験対策
29		国家試験対策
30		国家試験対策
31		国家試験対策
32		国家試験対策

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅳ－1
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年 後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	星 伴路
7. 授業形式	過去の国家試験問題を用いての解説講義
8. 授業の目標	これまでに得た知識の整理をし、4択問題を解きながら更なる理解を目指す
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	事前に講義範囲を復習し、疑問点のある程度まとめておく事
11. 教科書	『解剖学 第2版』 社団法人 東洋療法学校協会編
12. 副読本	『ネッター解剖学アトラス 第4版』 F.H.Netter著 相磯貞和訳 南江堂
13. 推薦参考図書	『イラスト解剖学 第7版』 松村 譲児 著 中外医学社 『解剖学講義 改訂3版』 伊藤 隆 著 南山堂

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	ガイダンス	後期授業の進行予定説明と授業内容の説明
2	第1章 人体の構成	国家試験の傾向と対策（組織学）および模試問題等の解説
3	第6章 生殖器系	国家試験の傾向と対策（発生学）および模試問題等の解説
4	第10章 運動器系	国家試験の傾向と対策（運動器）および模試問題等の解説
5	第2章 循環器系	国家試験の傾向と対策（循環器）および模試問題等の解説
6	第3章 呼吸器系	国家試験の傾向と対策（呼吸器）および模試問題等の解説
7		期末試験(統合教育科目・解剖学範囲)の解説
8	第4章 消化器系	国家試験の傾向と対策（消化器）および模試問題等の解説
9	第5.6章 泌尿生殖器系	国家試験の傾向と対策（泌尿器・生殖器系）および模試問題等の解説
10	第7章 内分泌系	国家試験の傾向と対策（内分泌器）および模試問題等の解説
11	第8章 神経系（中枢）	国家試験の傾向と対策（中枢神経）および模試問題等の解説
12	第8章 神経系（末梢）	国家試験の傾向と対策（末梢神経）および模試問題等の解説
13	第9章 感覚器系	国家試験の傾向と対策（感覚器）および模試問題等の解説
14	第8章 神経系（末梢）	国家試験の傾向と対策（伝導路）および模試問題等の解説
15	第10章 運動器系	国家試験の傾向と対策（局所・体表解剖）および模試問題等の解説

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅳ－2－A
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年 後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	菊地 裕一
7. 授業形式	過去の国家試験問題を用いて国家試験対策を中心に行う。
8. 授業の目標	国家試験に対応するための基礎的な部分を抑え、重要項目を把握し国家試験に対応できる力をつける。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	配布プリントは各自で整理整頓し、いつでも復習できるようにしておくこと。
11. 教科書	衛生学・公衆衛生学
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	公衆衛生がみえる2023-2024 MEDICMEDIA

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	国家試験対策	大項目3：ライフスタイルと健康
2		大項目4：環境と健康
3		大項目7：母子保健 大項目8：学校保健
4		大項目10：感染症とその対策
5		大項目10：感染症とその対策
6		大項目2：健康の保持増進と疾病予防 大項目5：産業保健
7		大項目11：消毒法 大項目12：疫学
8		大項目13：保健統計

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅳ－2－B
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年 後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	飯島 直子
7. 授業形式	作製したプリントと教科書を中心に進める。iPadを使用する。.
8. 授業の目標	国家試験に全員合格できることを目指して授業をする。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	私語や居眠りは厳禁。丸暗記でなく仕組みを理解するように。
11. 教科書	『病理学概論』 社団法人 東洋療法学校協会 医歯薬出版
12. 副読本	なし
13. 推薦参考図書	『病理学』 堤寛著 医学芸術社

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第4章、第5章	循環障害、退行性病変
2	第7章	炎症
3	第8章	腫瘍
4	第8章	腫瘍
5	第9章	免疫異常・アレルギー
6	第9章	免疫異常・アレルギー
7	第10章	先天性異常
8	第3章	病因

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅳ－3
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年 後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	濱津 慶子
7. 授業形式	問題演習（4択）と解答解説
8. 授業の目標	国家試験に合格できる実力を身につける。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	教科書を忘れずに持参すること。
11. 教科書	生理学 第3版 （医歯薬出版株式会社）
12. 副読本	特になし
13. 推薦参考図書	生理学 受験と学習マニュアル

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	性周期	問題演習（4択）と解答解説
2	免疫	
3	神経系	
4		
5	総合	
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅳ－4
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年 後期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	手塚 清恵
7. 授業形式	演習
8. 授業の目標	各教科の総復習として四択問題を解き、苦手な科目や分野の理解を深める。
9. 成績評価	授業の出席状況や定期試験で評価する。
10. 受講上の注意	自分自身に必要な教科書・資料（プリントなど）を必ず持参すること。
11. 教科書	自分自身に必要な教科書・資料（プリントなど）
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		問題演習（全教科、全範囲）
2		問題演習（全教科、全範囲）
3		問題演習（全教科、全範囲）
4		問題演習（全教科、全範囲）
5		問題演習（全教科、全範囲）
6		問題演習（全教科、全範囲）
7		問題演習（全教科、全範囲）
8		問題演習（全教科、全範囲）

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	統合教育科目IV-5
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・通年
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	菊池 裕一、他
7. 授業形式	国家試験と同様の形式の模擬試験を行う。
8. 授業の目標	国家試験の問題数、解答方法、出題傾向に慣れるとともに、各科目の学習内容について総合的な理解を目指す。
9. 成績評価	定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	模試の日程を確認し、欠席しなければならない場合は事前に欠席届を提出すること。 模擬試験当日に欠席せざるをえなかった場合は試験開始時間前に学校に電話連絡をすること。
11. 教科書	国家試験に出題される科目の教科書及び参考書
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		オリエンテーション
2		校内模試
3		校内模試
4		合同模試
5		合同模試
6		校内模試
7		校内模試
8		論文大会
9		合同模試
10		合同模試
11		総復習
12		総復習
13		総復習
14		総復習
15		総復習
16		総復習
17		総復習
18		総復習
19		校内模試
20		校内模試
21		校内模試
22		校内模試
23		合同模試
24		合同模試
25		後期期末試験
26		後期期末試験
27		校内模試
28		校内模試
29		合同模試
30		合同模試
31		校内模試
32		校内模試

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	職業教育 I ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等9年勤務）
2. 科目分類	応用分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 通年
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	石丸 幸宏 他
7. 授業形式	
8. 授業の目標	はり師、きゆう師という資格を多面的に理解を深める
9. 成績評価	出席とレポート提出によって評価する。
10. 受講上の注意	学外の学会への参加や外部の講師を招いての講演等がある為、服装を整えて受講する事。
11. 教科書	
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		キャリア学習（自己分析）
2		新入生研修会
3		コミュニケーション学習
4		卒業生講演
5		校内学術論文大会
6		卒業生講演
7		学会参加
8		担架救護

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	職業教育 I ※実務経験のある教員の授業科目 (鍼灸院等9年勤務)
2. 科目分類	応用分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 通年
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	石丸 幸宏 他
7. 授業形式	直前にどのような事をするのか案内をいたします。
8. 授業の目標	知見の幅を広げることを目的とし、積極的に参加することを目標とします。
9. 成績評価	出席率を基本として、課題の提出率、態度（積極性など）を基に評価します。
10. 受講上の注意	原則的にすべて出席できるように日程調整や体調管理をしましょう。
11. 教科書	
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		卒業生講演
2		模試 問題解説作成
3		学会参加

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	職業教育Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等8年勤務）
2. 科目分類	応用分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 通年
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	小野 かおり ほか
7. 授業形式	講義 ほか
8. 授業の目標	様々な分野での学びを通し、幅広く知識を取り入れる。
9. 成績評価	出席状況、提出物の提出状況などで評価する。
10. 受講上の注意	必ず出席すること。（やむを得ない事情で欠席する場合には事前に連絡すること）
11. 教科書	必要なものは都度連絡します。
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		卒業生講演
2		学術論文大会
3		リクルート講演
4		解剖見学実習（福島県立医科大学）
5		美容鍼灸特別授業
6		社会保険労務士講演
7		全日本鍼灸学会 東北支部 A/B講座
8		郡山商工会議所講演

2025年度 講義計画書（後期）

1. 科目名	職業教育Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等14年勤務）
2. 科目分類	応用分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 通年
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	塩野 拓人 ほか
7. 授業形式	講義他
8. 授業の目標	様々な分野での学びを通じ、幅広く知識を取り入れる。
9. 成績評価	出席状況、課題・レポートの提出状況などで評価する。
10. 受講上の注意	必ず出席してください（やむを得ない事情で欠席する場合には事前に連絡すること）。
11. 教科書	
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		鍼灸特別講義
2		模試問題解説作成
3		全日本鍼灸学会 東北支部 A/B講座
4		特別講演

2025年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床研修
2. 科目分類	応用分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	千木良 美歩
7. 授業形式	台湾の中医薬大学にて講義または、臨床施設見学等
8. 授業の目標	日本と環境の違いや中医学特有の鍼灸の治療アプローチの違いを知り、経験を臨床に活かせるようにする。
9. 成績評価	出席とレポート提出によって評価する。
10. 受講上の注意	健康に留意して礼節を大事にし、団体行動を意識して行動する。
11. 教科書	
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	台湾海外研修 事前説明	台湾研修に関わる事前説明及び準備
2		同上
3		同上
4		同上
5	台湾海外研修	台湾の中国医薬大学にて現地の臨床施設の見学や現地の講師による講義の聴講を行う。
6		同上
7		同上
8		同上
9		同上
10		同上